



14
14
3



夏

氣管枝炎

ブロン
ヒナス

打診 異常ナシ

聽診 初メニハ吹笛囉音及ヒ類鼾囉音ヲ聽

キ且銳利ノ呼吸音ヲ發ス然ルニ終リニ至リテ

ハ濕性ノ大水泡音ヲ發ス又毛様氣管枝炎ニ

在テハ小水泡音ヲ聽ク氣胞音ハ甚ク弱ク或

ハ全ク消失スルヲアリ

咯痰 初メハ少量ニシテ多ク泡沫ヲ交エ終リ

ニ至テハ甚ク多量トナリ透明ニシテ硝子様或

ハ黄色トナルアリ又慢性氣管枝炎ニ在テハ



91-2007

濃厚粘稠ニシテ粘液膿狀トナリ少ク泡沫アリ
體温 稍昇騰スレド攝氏三十九度以上ニ達
スルハ甚タ稀ナリ

夏

肺炎

視診 患者褥床ニ在リ好ニテ體ノ一側ヲ下
ニシ且呼吸ノ運動少ナキ者ヲ患側トナス
觸診 肺質ノ炎症ニ由テ厚變スル部ノ胸面
ニハ胸顫動或又タ強盛トナル
打診 初期充血ニハ濁性ノ鼓音ヲ發シ第二期
期病機ノ頂ニ在テハ濁音及ヒ實度音

空氣ヲ全クヲ發ス且打診ノ際指頭ニ應スル
有サハル微抗抵甚タ多シ

聽診 第一期ニハ不定呼吸音氣胞音ト氣管
枝音ノ中間ニ
位ス肺胞囉音ヲ聽ク第二期ニ在テハ氣管枝
音及ヒ胸語四七章ヲ發シ第三期肺炎ノ
消散期ノ
初メニハ氣管枝囉音四六章ノ乙終リニハ大
水泡音更ニ肺胞囉音恢復ヲ聽クヘシ
咯痰 初メハ甚タ粘稠ニメ且泡沫ヲ含ミ白
色ナリ終リニハ黃色或ハ鐵鏽色或ハ深赤色
トナルアリ第二期肺質ニハ微小ノ白キ小塊

ヲ咯出ス此毛細氣管枝内ノ纖維性滲出物ニ
ノ之ヲ水中ニ投スレハ分歧セル細小氣管枝
ノ如キ状ヲ現ハス

體温 病發ノ寒戰期ニ於テモ已ニ攝氏ノ三
十九度五分ヨリ四十度ニ達シ漸々昇リ四十
度六分ニ至ル但シ此熱早且ニ於テハ少ク降
リ二分ヨリ一度日暮ニ至リ再ヒ昇騰ス而シテ
其熱度俄然下降シテ常温ニ至ル丁屢之アリ
是分利期ニ於テシ或ハ
虚脱ニ陥ルルニ然リ

慢性肺結核

コロンネ、ルンゲン
タルクローセ

打診 第一期ニ於テハ異常ナシ然レ病勢ノ
漸ク進ムニ從テ鼓性トナリ且肺質ノ凝固セ
ル部表面ニ達スルルハ濁音ヲ發ス又痰液ヲ
以テ充テサル空洞ノ胸壁ニ近接スルルハ鑼
性打音ヲ發シ且其中ニ大ナル氣管枝ノ開口
スルアルルハ破壺音ヲ呈スルナリ
聽診 初期ニ在テハ著シキ音徴ナシ然レ肺
尖ノ萎縮或ハ結締織增生ノ硬化スルルハ不
定呼吸音ヲ聽ク又肺結核ノ前驅症ナル加答
兒期ニハ銳利呼吸音延長呼吸音アリ后ニ至

リテ小水泡囉音ヲ聽ク又撒布性ノ浸淫機ニ
 在テハ銳利呼吸音或ハ斷續呼吸音或ハ小水
 泡囉音ヲ聽ク又攢簇性浸淫機ニ在テハ其景
 況ノ假令ハ侵サレタル所ノ肺質中ニ由テ氣管
 枝呼吸音、氣管枝囉音、胸語及ヒ強キ胸顫動ヲ
 呈ス其他空洞ニ在テハ鑛性諸種ノ水泡囉音
 空洞呼吸音四十四章ノ第六ヲ参考セヨ及ヒ鑛響囉音四十四章ノ第六ヲ聽ク
 咯痰 初メニハ微スヘキノ狀ナキモ終リニ
 ハ二分セル肺ノ彈力纖維ヲ見ル頭微鏡上檢

夏

氣胸フノイモ
トラキス

又屢血液ヲ混スルヲアリ又空洞ヲ生スルノ
 后ハ其咯痰圓形ニ凝結セル不透明ナル膿狀
 或ハ粘液膿樣物ニノ其中ニ彈力纖維及ヒ不
 正角ノ顆粒狀物ヲ混スル者ナリ

視診 胸廓ノ側部稍擴大トナリ呼吸運動減
 少シ且肋間隆起ス

打診 鼓音或ハ濁音ニメ鑛性ノ餘韻ヲ帶フ
胸廓ニ耳ヲ貼シ兼テ強ク打敲 若シ氣胸ニ兼
スルハ其音最モ明瞭ナリ

テ肋膜腔内ニ滲出液アルハ 胸廓ノ下部ニ

實質音ヲ呈ス然レ患者ノ位置ヲ變スルニ
 從テ滲出液流下スルカ故ニ實質音部モ亦從
 テ變ス例之ハ起立スルハ患胸ノ下部ニ實
 後下部ニ於テ發スレハ仰臥スルハ患胸ノ
 聽診 全ク氣胞音ヲ聽カス發咳スルハ屢
 空洞呼吸音ニ兼テ鐵性囉音ヲ聽キ又聲顫動
 或ハ胸 幽微トナル若シ肋膜腔内ニ滲出物ヲ
 儲蓄スルハ患者ノ躰ヲ動カスニ當テ空洞
 性ノ反響アル拍音ヲ聽クヘシ之振盪音ニ
 心尖搏動ハ其常位ヲ變ス

專

肺氣腫

視診 胸廓膨大ノ桶形ヲナシ且其呼吸ノ運
 動易カラスノ恰モ努力ノ作用スルカ如シ
 打診 滿音或ハ稍鼓音ヲ帶ヒ且肺音部廣延
 ス胸壁前部ノ下端ハ第七或ハ尚ホ下リテ第
 ハ下リテ第十肋後部ノ下端ハ第十肋或
 ニ肋骨ニ至ル心臟濁音部ハ多少變小スルモ
 ノナリ肺縁ノ延長ノ常ヨリ心ヲ被
 聽診 吸氣音弱ク時アリテ聽取スル能ハス
 呼氣音ハ常ニ舒長ス若シ氣管枝加答兒症ヲ
 合併スルハ大小ノ水泡囉音ヲ聽ク

咯痰 別ニ特徴ナシ只其氣管枝加答兒症アル時ハ其強弱ニ應シテ多少ノ差アルノミ

肋膜炎

プロイナ

乾性肋膜炎ニハ理學的ノ確徵ナシ然レモ滲出液アル者ニハ主証多シトス

視診 肋間平坦陥凹ヲ失フトナリ患側ノ胸廓稍

擴大シ呼吸運動減少シ或ハ全ク之ヲ廢スルニ至ル

打診 濁音ヲ發ス而シテ其濁音上界ノ最モ高キ部ハ脊柱ニシテ此ヨリ斜メニ下リテ前胸ニ

達シ波状ノ線ヲナス且患者ノ位置ヲ變セシ

メ打診スルモ其濁音部變位スルヲ少ナシ又

滲出液濁音部ノ上部ニハ鼓音ヲ呈ス其他滲出

液右胸ニ在ルハ横隔膜及ヒ肝臟ヲ壓下ス

但シ其液甚々多量ナレハ心臟ヲ左方ニ轉移

ス而シテ滲出液左胸ニ在テ多量ナルハ心

臟ヲ右方ニ偏倚セシムルモノナリ

聽診 滲出液ノ存スル部ハ弱キ呼吸音或ハ

不定呼吸音或ハ全ク呼吸音ヲ聽取スヘカラ

サルアリ左右肩胛下端ノ間部ニ於テハ氣管

言出抄行 卷之三十一 附 肺病

枝音及胸語ヲ聽ク其他此病ノ初期ニハ稀ニ
摩擦音ヲ聽クアレモ末期渗出物ニ在テハ
著明ナリ又胸顫動或ハ減少或ハ全ク消却ス
最モ多量ノ滲出液
アルハニ於テス

夏

胸水病

ヒドロ
ラキス

此病ハ左右ノ肋膜腔ニ滲漏液ノ蓄積スル者ニ
ノ必ス全身水腫ト共ニ發現スル者ナリ而シテ本
症ハ大ニ前症ニ類似ス

視診 肋膜炎滲出液症ノ如ク肋間筋麻痺セ
サルカ故ニ肋間隆起セス其他呼吸短促胸廓

擴大ス

打診 鈍濁音ニシテ此部ノ上界胸廓ノ前後同
等ニアリ且患者ノ位置ヲ交換スルニ從テ濁
音界大ニ變化ス

聽診 弱キ呼吸音或ハ不定呼吸音ヲ聽ク又
滲漏液ノ量增多シ肺臟ヲメ脊柱部ニ壓搾ス
ルハハ脊柱ニ沿フテ氣管枝音ヲ聽クニ至ル
第三心臟及ヒ大血管病ノ諸徴

患者熱ヲ有スルカ否ヲサレカヲ診定スルハ
第一件ナリ

今行建屋 卷之五十一 〇八 同 成反

言部林
卷之五十一
附氏病林

夏

熱ニ伴フテ發スル心臟及ヒ大血管ノ病ハ即チ急性心外膜炎、急性心筋膜炎、及ヒ心内膜炎是ナリ

夏

熱ナクメ起ル所ノ心臟及ヒ大血管病ハ即チ心嚢水腫、心嚢結核、心嚢瘤腫、慢性心筋膜炎、心臟肥大、心臟乏養、心臟破裂、心臟脂肪變性、心臟瓣膜合閉不全、神經性心悸動、アンキナ、ペクトリス、バセドウ井一氏病、跳血嚢、動脈アテロマ等是ナリ
心臟及ヒ大血管病ノ鑑識上ニ於テハ理學的診斷法ヲ以テ尤モ貴要ナル者トス而メ此診斷、

夏

成績ハ已ニ三十七章ヨリ三十七章ニ至リ五十一章ヨリ六十章ニ至リ百九章及ヒ百三十ヨリ百三十二章ニ於テ詳載セリ故ニ其主要ナル者ヲ茲ニ舉グ

夏

急性心外膜炎

アクリテペリ
カルチニス

視診 頸靜脈充張シ心尖ノ搏動ハ初期ニ在テ廣ク且強シ終リニ至リ滲出液增多スルハ甚々微弱トナリ遂ニハ全ク缺乏スルニ至ル又滲出液甚々過量ナルハ心臟部稍突起スルヲ見ル

診新捷徑
卷之五十一
〇九
岡氏病反

打診 其始メ變常ナシ然レ滲出液大ニ生成
スルニ至レハ心臟ノ三角濁音部其長徑及セ
幅徑ヲ増加ス

聽診 始メニハ大血管起根ノ部三角濁音ニ部ノ上端ニ
當テ摩擦音ヲ聽ク而メ其音淺在スルカ如シ

然レ聽胸器ヲ以テ強ク壓貼スル片ハ更ニ著
明トナル且心音ト同時ニ起ラスノ稍後ル、

者ニシテ此心内膜炎ヨリ生スル又患者ヲメ呼
吸ヲ暫ク止メシメ聽ク片モ亦此音アリ肋膜炎ノ

摩擦音ト異ナ其他心音ハ甚ク弱ク劇性ニ在

真

急性心臟筋膜炎

ドクトル、ミラ
チア、セ
カルヂチス

テハ全ク聽ク可ラサルコトアリ然レ患者ノ躰
ヲ前屈セシメ心部ヲ檢スル片ハ猶ホ著ク聽
クコトヲ得ヘシ
心外膜炎ヨリ續發スル諸症ハ即チ左肺ノ壓
迫呼吸不利吃逆青色症等是ナリ
急性心臟筋膜炎ニハ確徵トナルヘキ症状ヲ
見ス只他ノ心臟病ノ定徵トナルヘキ症候ヲ
備フルヲ以テ判知スルノミ即チ熱度高昇胸
部ニ苦悶ヲ覺ヘ脈搏不整トナルモ心臟内膜

炎及七外膜炎ノ正徵等雜音ナキハ以テ此病
タルヲ審決スヘシ然レ此病ハ獨立スル
甚タ稀ニ多クハ心内膜炎及外膜炎ト合併
スルモノタリ

冕

急性心内膜炎

アクトエエン
ドカルヂナス

視診 心尖搏動強クノ且搏面廣シ
觸診 脈搏小ニメ軟ナリ
打診 心三角濁音部ノ右境廣大トナル此心
臟右室ノ擴大スルニ因ス
聽診 僧帽瓣ノ此炎症ニ罹カルハ心尖部

ニ於テ収縮性雜音起心ノ収縮時ニテ聽ク又僧
帽瓣膜ノ上面向ノ面ニ炎性滲出物ノ為ニ粗糙

トナルハ心尖部ニ於テ開張性摩擦音開張
時ニテ發スルヲ以テ大動脈ノ第二音掩蔽セ

ラレ肺動脈ノ第二音ハ之ニ反ノ高調ニシ且
鋭性ニ變スルヲ常トス

右ニ述フル諸徵ヲ以テ畧心内膜炎ナルヲ
判知スヘシト雖モ不全ナル鑑識ハ瓣膜ハ合

閉不全ヲ起シ次テ心臟對稱機大心肥ヲ發スル
ノ後ニ至テ始メテ其確實ヲ得ヘシ故ニ此病

言者抄行
白
本

初期不明ナルモノ多シトス

心囊水腫 ヒドロペリカルダム

觸診 心尖ノ搏動不分明ナルカ或ハ全ク消

失ス 心臓ノ肥大

打診 心臓實質音部ノ形状ト其大サハ外膜

炎ニ於ケルト同一ナリ 心三角形實質音部ノ長徑及幅徑大ニ増加ス

聽診 心音弱ク或ハ全ク消滅シ且摩擦音ヲ

聽ク ナシ

慢性心筋膜炎 コロニセ、ミラカルガナス

夏

慢性心筋膜炎ハ確著ノ正徴トナルヘキ症候

アルコナシ故ニ心音弱クノ雜音ヲ帶ヒス又

肺氣腫或ハ滲出物ヲ有スル外膜炎等ニ因セ

スノ心三角實質音部ノ廣大セル者ハ該症ト

看做スヘシ ワリナドライト氏ノ說ニ據レハ

此病ハ心ノ收縮力不全ナルカ故ニ以上ノ症

候ニ兼テ種々ノ續症ヲ見ハス者ナリ

心臟肥大 ヒルトロピ

重左室ノ離軸肥大 是ハ心腔内擴大シ且其筋組

而ノ唯心壁ノ最モ延廣ノ内腔ノ廣大ハ頸動脈ノ搏

心臓肥大
重左室ノ離軸肥大
而ノ唯心壁ノ最モ延廣ノ内腔ノ廣大ハ頸動脈ノ搏

夏

心臓肥大
重左室ノ離軸肥大
而ノ唯心壁ノ最モ延廣ノ内腔ノ廣大ハ頸動脈ノ搏

諸淋淋律 精之攻

動強クノ目撃スルヲ得ヘク又大ナル動脈
上ニハ收縮性ノ音ヲ聽ク心臟ノ搏動甚ク強
劇ニ一肋間ヨリ三肋間ニ達シ觸知スヘク
又目撃スヘシ而シテ常在部^{第五肋間}ヨリ低下スル
者ナリ心濁音部ハ其縦徑増加シ且左室ノ音
ハ強クシテ其收縮音^{第一音}ニ屢鑛性ヲ帶フル
アリ
乙右室ノ離軸肥大ハ心尖ノ搏動強クシテ常
第五肋間ヨリ右側ニ偏ス其濁音部ハ右方ニ増加
シ右室ノ心音ハ強盛トナル

夏

心臟之養

ヘルツァット
ロビイ

視診 心尖搏動ハ弱ク或ハ全ク見ルベカラ
ザルニ至ル
觸診 脈搏小ナリ
打診 心三角濁音部ハ變小ス
聽診 心音確微ナク或ハ弱ク或ハ鈍性ヲ帶
フ其他ノ發症ハ呼吸不利及ヒ水腫等ナリ
心臟脂肪變性<sup>フェット
ヘルツ</sup>
觸診 脈搏小ニシテ軟ナリ屢々甚シキ遲脈ヲ
現ハスコアリ心尖搏動ハ觸知シ難シ

夏

心臟之養

ヘルツァット
ロビイ

視診 心尖搏動ハ弱ク或ハ全ク見ルベカラ
ザルニ至ル
觸診 脈搏小ナリ
打診 心三角濁音部ハ變小ス
聽診 心音確微ナク或ハ弱ク或ハ鈍性ヲ帶
フ其他ノ發症ハ呼吸不利及ヒ水腫等ナリ
心臟脂肪變性<sup>フェット
ヘルツ</sup>
觸診 脈搏小ニシテ軟ナリ屢々甚シキ遲脈ヲ
現ハスコアリ心尖搏動ハ觸知シ難シ

心尖搏動ハ弱ク或ハ全ク見ルベカラ
ザルニ至ル
脈搏小ナリ
心三角濁音部ハ變小ス
心音確微ナク或ハ弱ク或ハ鈍性ヲ帶
フ其他ノ發症ハ呼吸不利及ヒ水腫等ナリ
心臟脂肪變性
脈搏小ニシテ軟ナリ屢々甚シキ遲脈ヲ
現ハスコアリ心尖搏動ハ觸知シ難シ

視診 心尖搏動弱クノ見ルハカラス

打診 心三角濁音部廣大スルト屢之アリ

聽診 心音弱ク殊ニ心室ノ第一音ニ於テ然

リ其他呼吸不利ス

要

心臟器質ノ缺損ヲルガニモヘル
クニエーレル

心臟器質ノ缺損症ニ就テハ預メ左ノ件ヲ知ル

ベシ

特發ノ心臟器質缺損ハ必ス左室ニ起ル者ニノ

右室ニハ殆ント見ザル所ナリ若シ右室ニアル

片ハ即チ三尖瓣ノ病アルヲ表スル者ニメ多ク

ハ左室ノ器質病ヨリ續發シ來ル者ナリ又肺動

脈瓣ノ器質病ハ最モ稀有ノ症ナリトス又諸種

ノ合併症殊ニ僧帽瓣病ニ大動脈瓣ノ器質病ヲ

兼ル者ニ在テハ左ノ經檢上ノ定則ニ由テ區別

セズンバアラズ

若シ心臟雜音心尖ヨリ直上スルニ從テ強大シ

且ツ僧帽瓣膜ノ所在ニハ其雜音最モ著シク却

テ肺動脈上ニ聽取スル能ハサル片ハ僧帽瓣膜

ノ器質病タルマシ又雜音心尖部ヨリ心ノ根基

部ニ至ルニ從テ強大シ大動脈上及ヒ心窩ニ於

テ七猶ホ聽ユルハ大動脈瓣ノ器質病ト推察スヘシ

第二 僧帽瓣膜ノ器質病

〔甲〕僧帽瓣膜ノ合閉不全症ハ心臟收縮時ニ雜音アリテ心尖部ニ於テ殊ニ著ク聽クベシ且肺動脈ノ第二音ト心室ノ第二音ハ強盛ニシテ大動脈音ハ微弱トナリ又脈搏ハ小トナル心臟三角濁音部ハ其横徑増加ス是レ對稱機能ニテ右室ノ擴大ヲ發スルニ由ル者トス其他心尖ノ搏動ハ強ク且廣大トナリ加之ナラス左

乳線ヨリ左側ニ觸知シ得ル

〔乙〕左靜脈口狹窄

僧帽瓣膜ノ合閉不全症ニ併發スル者ニ獨發スルニ甚々稀ナハ左室ニ於テ心臟開張時ニ雜音ヲ聽キ且肺動脈ノ第二音ハ甚ク強ク大動脈ノ第一音ハ弱ク心臟三角濁音部ハ廣大シ心尖ノ搏動少シク強シ且ツ右方ニ廣大シ又偶開張時ニ於テ輕キ顫振ヲ觸覺スルアリ其他脈搏ハ小ナリ

〔丙〕左靜脈口ノ狹窄ニ僧帽瓣膜ノ不全ヲ兼ル

者ハ左室ニ於テ心ノ收縮及開張時ニ雜音ヲ

聽キ肺動脈ノ第二音變強シ大動脈ノ第二音變弱ス心尖搏動及ヒ心三角濁音部ハ合閉不全症ニ於ケルガ如シト雖モ或ハ猶ホ廣シトス其他脈搏ハ小ナリ

第三大動脈瓣ノ器質病 フエーレデル ヲヨルテ

甲大動脈瓣ノ合閉不全症ハ左室及大動脈上ニ於テ開張時ニ雜音ヲ聽キ頭動脈上ニハ只第一音ノミヲ聽キ或ハ第二音消滅ノ之ニ代ル所ノ雜音ヲ聽ク心尖搏動ハ常ヨリ低下シ且左方ニ偏ノ廣ク波状ノ顫振ヲ觸覺ス心三角濁

音部ノ長徑増加ス脈搏ハ大ニノ硬ク且跳性ヲ帶フ中等大ノ動脈 腕骨動脈 足背動脈 表ニ在ノ手掌動脈 弓等ハ著シキ一音ヲ聽クベシ

乙大動脈口ノ狭窄ハ左室ヨリ心尖搏動部及大動脈上 右胸第ニ肋間ノニハ收縮時ニ雜音ヲ聽ク大動脈ノ第二音ハ常ヨリモ弱シ心尖搏動少シク強ク且廣延ス心濁音部ハ其縱徑及横徑少シク增大ス脈搏ハ甚タ小ナリ

丙大動脈瓣不全ニ狭窄ヲ兼ヌル者ハ左室ト大動脈上 右第ニ肋間ノニ於テ收縮及開張時

ニ雜音ヲ聽キ其他偶僧帽瓣膜音ヲ併聽スル
「アリ」心臟濁音ノ縱徑大トナリ又幅徑左方
ニ増大ス

第三 三尖瓣ノ器質病 フエールルデ
ルニマリ多トナリ 獨發症甚々稀ニ
症ニ合併スル 僧帽瓣膜木全

甲 三尖瓣ノ合閉不全ハ左右第五肋軟骨ノ中間
ナル胸骨部ニ於テ收縮時ニ雜音ヲ聽キ且其
音此部ヨリ右方ニ廣延ス通常肺動脈ノ第二
音弱トナリ或ハ偶弱トナルアリ其他頸靜脈
ニ脈搏ヲ認ムベシ

乙 右靜脈口ノ狹窄 獨發ハ甚々稀ニメ多クハ三
尖瓣ノ合閉不全ニ併發スル

者ハ右室ニ於テ開張時ニ雜音ヲ聽キ肺動脈
左第二肋間ノ胸上ノ音甚々弱ニ頸靜脈大ニ
骨ニ接スル部 怒張ス然モ脈搏ヲ認メス

第四肺動脈瓣ノ器質病 エーレルケル
アルモナリ 是レ極メテ 稀有ノ症ナリ

甲 肺動脈瓣ノ合閉不全ハ胸骨ノ左縁ニテ左
ノ第二ト第三肋トノ間ニ於テ開張時ニ雜音
ヲ聽ク心臟濁音僅カニ右方ニ廣延ス心尖搏
動ハ常矣 第五肋間ニアリ頸靜脈充盈且膨起ス
乙 肺動脈口ノ狹窄ハ胸骨ノ左縁ニテ第二ト第

裏

三肋ノ間ニ於テ収縮時ニ甚々高キ雜音ヲ聽ク而シテ此部ヨリ上方或ハ右方或ハ下方ニ至ルニ從テ其雜音減退ス又此部位ニ於テハ猫佞響ヲ觸知スルヲ著シ心濁音ハ右方ニ廣延ス心動激搏スレバ心尖ノ搏動不分明ナリ

大動脈跳血囊 即動脈瘤 アチウリスマアフルテ

動脈瘤ノ増大シテ左胸廓ノ前壁或ハ後壁ニ達スル片ハ其部ニ濁音ヲ生ス又其瘤上行大動脈ノ左側ニ生スル片ハ濁音部胸骨左縁ニアリ又肩胛角ノ部位ニ於テ下行大動脈ニ

生スル片ハ通常第八肋ヨリ第十肋骨部ニ濁音ヲ生ス又瘤ノ存セル胸壁上ニハ心ノ収縮時ニ輕キ震顫ヲ觸知シ或ハ目撃スヘシ又瘤ノ發育シテ胸壁ニ接着スル片ハ其壓迫ニ由テ漸々胸壁消耗シテ菲薄トナル上行大動脈瘤ヲ聽診スル片ハ開張及収縮音第一音ヲ聽キ或ハ収縮時雜音ニ兼テ開張時雜音ヲ聽クハシ又撓骨動脈ノ搏動ハ心搏動心収縮時同時ニ發セスノ稍其後ニアル者ナリ

第三 腹部各器病ノ諸徵候

胃

第一 胃ニ起ル諸病中最モ重要ナル者ハ急性胃
加苔兒慢性胃加苔兒穿穴性胃潰瘍胃癌幽門狹
窄及胃穿孔症是レナリ

胃

急性胃加苔兒 カタリス、バントリ
クリン、アクトリス

此症ハ先ツ身軀倦勞メ頭痛アリ輕熱ヲ帶ヒ
食機缺亡メ酸性ノ噯氣ヲ發シ口内苦味ヲ覺
ハ嘔氣或ハ嘔吐アリ或ハ下利或ハ便秘ヲ起
シテ舌苔アリ胃部膨滿メ之ヲ按壓スルニ知
覺敏銳トナリ且其尿中多クハ尿酸ノ沈澱ヲ
生スルヲ見ル

胃

慢性胃加苔兒 カタリス、バントリ
クロー、コロニクス

此症ハ食欲不定ニシテ或ハ缺乏ニシテ或ハ増進ス
ル者ニシテ多ク噯氣ヲ發シ胃部灼熱且壓痛ヲ
覺ヘ又食後胃部膨起シ毎朝粘液ヲ吐出シ常
ニ神思衰カナラス

胃

穿穴性胃潰瘍 ウルクス、バントリク
リト、バルホラニス

此病ハ胃ノ幽門部ニ局メ腹痛アリ殊ニ食後
ニ於テス且食後一二時ニシテ血液吐血粘液食
物等ヲ吐出シ其他ノ諸症ハ急性胃加苔兒ニ
異ナルコトナシ

夏

胃癌

カルチン、ガストリク

胃ニ生スル癌ハ硬癌ルース及ヒ髓癌ソジマ最モ多シトス

此病ハ胃部ニ刺痛アリ、脊維ニ散シ食機減少シ食後二三時ニ暗褐色ノ物ヲ吐出ス而シテ大便多クハ秘結シ皮膚枯燥、帶黄灰白色トナリ又胃部ヲ觸診スルニ幽門下ニ於テ硬固ニメ不齊ナル球形ノ結節状物ヲ按知ス、此レ必見ノ徴ニアラスト雖身軀漸々瘦削メ甚タシキニ至ル

夏

第二腸管ニ起ル諸病中最モ主要ナル者ハ急性小腸加谷兒慢性小腸加谷兒穿穴性腸潰瘍及ヒ急性大腸加谷兒慢性大腸加谷兒盲腸炎盲腸

外圍炎直腸炎直腸外圍炎直腸癌其他腸入鞘イン

腸捻曲カワル腸管内ノ寄生物バクテリア圓蟲、蛇蟲、蟻、蠅

夏

急性小腸加谷兒

カタルス、インテスチナリス

此病大人ニ在テハ熱温少ク尤進シ或ハ否ラザルアリ頭痛アリテ安眠ヲ得ス常ニ腹部少ク奪急ニ或ハ疼痛スルアリ又ハ上圍ノ際或

外科書 卷之五十一 〇五

ハ前一於テノミ發ス又腹肚鼓脹シテ雷鳴下
利軟便或ハ稀黄色ノ水瀉ニソノ上皮細胞粘ヲ
發シ尿量減少ス夏時ニ於テハ屢々嘔吐ヲ併
發シ又腓腸ノ筋痙攣ニ速ニ全ク虚脱ニ陷
ルヲアリ類虎烈
小兒ニ在テハ下利嘔吐ヲ起シ腹肚膨滿シテ
疼痛アリ速ニ躰力脱衰ニ且痙攣搐搦ヲ發ス
ルヲ屢々是アリ

夏

慢性小腸加答兒

カタルス インテスチナリス
コロニクス

此病ハ熱ヲ帶ビス或ハ遷延下利ヲ發シ或ハ

夏

穿孔性十二指腸潰瘍

パルホリーレンヂ
ゲエユウル

此病ハ胃ノ圓形潰瘍ニ於ケルカ如キ諸症ヲ
見ル而シテ其疼痛間歇性ニシテ食後數時ヲ歷テ
發シ殊ニ胃ノ右方ニ在リ

夏

盲腸炎及其外圍炎

チフリチス及
リチフリチス

此病ハ劇熱ヲ以テ起リ且盲腸部右腸ニ劇痛ア
リ之ヲ按壓スレハ殊ニ甚ダシク且該部腫起メ
上行結腸ニ波及ス其他頑固ノ便秘症ヲ發ス

言出抄行 卷之五十一 岡氏藏本

夏

又病機ノ進ンテ大腰筋ニ膿瘍ヲ生スルニ至
テハ硬結深在シ右脚ノ屈伸不全トナル
直腸炎及其外圍炎 プロクチチス、バ
リプロクチチス

此病ハ腹痛ニ兼テ肛門ニ灼痛ヲ發シ且裡急
後重シ始ト常ニ便秘シ而シテ硬屎ヲ排出スル
ニ當テ疼痛シ屢々其便ニ血液ノ混セル粘液
ヲ以テ被覆セルアリ

直腸外圍炎ニ於テハ指ヲ肛内ニ挿入ノ檢ス
ルニ直腸ノ外圍ニ廣延セル硬キ腫瘍アリ

夏

直腸癌 カルチノマ
レクチ

此部ノ癌腫ハ硬癌、髓樣癌、蜂窩狀癌ノ種類ヲ最
モ多シトス

此病ハ多ク便秘ニ或ハ癌細胞ヲ混セル溘便
ヲ泄ス直腸ヲ檢スルニ凹凸不平ニ隆起セ
ル腫瘍アリテ肛門括約筋ノ上部ニ狭窄ヲ生
シ疼痛及ヒ出血アリ且肛圍ニ弩張セル靜脈
ヲ見ル

夏

竊頰内腸脱 イニネレ
シムカ 腸振環 ウラル
ウルス 腸入鞘 イニワキ
ナキラン 腸捻曲

此各病ハ皆頑固ノ便秘ヲ起シ且腸ノ患部ニ

今新集 卷之五十一 〇三三

言

硬塊ヲ生シテ疼痛アリ蓋シ此上部ノ腸ハ膨脹ス其他疝痛、噎氣、嘔吐、吐糞等、諸症ヲ發ス

腸管ニ生育スル主要ノ蟲類ハ即チ蝨類チエストテ

ニア、ソリウ豚種テニア、メシ牛種ヲカネラタ

テニア、ラタ或ハボトリヲ、チエハルストラトス、蝨類

ト圓筒蟲類アスカリス、ルンブリコイデス蝨ト是レナリ

シウリス、ウエルミクハラリス蝨ト是レナリ

右ノ諸蟲ハ腸管ニアルモ著シキ病状ヲ顯ハス

トナシ然レ時トシハ輕微、腸胃症或ハ神經症

言

ヲ僅カニ見ハス故ニ其鑑識甚、明亮シ難キ者ナリ

蝨アハ多ク小腸内ニ占據スルモノニシテ其成熟セル一節プロトグロ大便ニ混メ排出シ又ハ獨

リ排出スルコトアリ

蛔蟲アスカハ結腸及小腸内ニ占據シ大便ト共

ニ排泄ス間、十二指腸ニ上リ胆汁總管ニ入り

黄疸症ヲ將來スルアリ又胃中ニ入り胃管ニ

廻リテ吐出スルアリ

蝨フキシウリスハ下行結腸及直腸ヨリ肛門ニ

ハ下

ハ下

ハ下

ハ下

ハ下

ハ下

ハ下

ハ下

三

第三肝臟及胆道諸病

在テ繁殖スル者ニメ若シ之ヲ生スルハ肛
 門甚タシク瘙痒ヲ發シ加之ラス一般ニ神經
 症例之ハ鼻中搔ヲ發現ス是ヲ以テ其肛門ノ
 瘙痒盲痔ニアラザレハ多クハ諛蟲ノ所為ナ
 ラント決定メ可ナリ又其肛門ヨリ出ルヤ大
 便ト共ニ排出スルノミナラス更ニ大便ニ混
 セスノ自出スルアリ又女子ニ在テハ肛門ヨ
 リ出テ腔内ニ這入スルアリ故ニ女児ノ白帶
 シ多

三

肝臟組織間纖維性炎

此ニ属スル所ノ主要ナル病ハ即チ肝臟充血
 肝臟炎、肝臟豚脂樣變質、肝臟脂化、肝臟癌、肝胞
 蟲、門脈炎、黄疸、胆道加答兒及胆石是ナリ

此炎常ニ慢性ニメ酒客ニ多ク發スル者ナリ初
 メハ肝臟増大スレテ終リニ至テハ組織間ノ
 新生結締織漸々萎縮シ從テ肝臟ノ全質モ亦
 縮小シ且硬化ス故ニ之ヲ名テ肝臟硬縮ト曰
 フ又肝臟ノ表面一般ニ凹凸不平トナリテ顆
 粒状ヲ呈ス故ニ又名ケテ顆粒肝ト曰フ此炎

肝臟組織間纖維性炎
 肝臟充血
 肝臟炎
 肝臟豚脂樣變質
 肝臟脂化
 肝臟癌
 肝胞蟲
 門脈炎
 黄疸
 胆道加答兒
 胆石

言部... 卷之五... 臨氏... 雜抄

ノ初起ハ太々不明ニ消化不良症ヲ發シ
風氣ヲ釀シ便秘ヲ起シ肝臟部ニ壓重ヲ覺
ユル等之レナリ既ニ肝臟硬縮症ヲ顯ハ
スニ及テハ面色土ノ如ク且屢々黃疸ヲ發
シ其他身軀羸瘦シテ下利ヲ起シ又打診ス
ルニ脾臟肥大シ又腹水ヲ生シ又初起ニ在
テ指頭ニ硬ク觸レシ所ノ肝臟左葉モ變小
シ加之ナラズ肝臟全部ノ竟ニ全ク消滅ス
ルニ至ル

膿潰性肝臟炎 スアラチウエ
ハパチ、ス

外傷性肝炎ハ外因創傷
撞衝ヲ受クルノ後チ軀温
増進シ肝部ニ疼痛ヲ生シ打診スルニ肝臟濁
音部増大シ且黃疸ヲ發ス
又慢性腸壞敗機ニ併發スル片ハ初メ劇シキ
惡寒ヲ發シ而シテ右ノ上ニ述ノル所ノ諸症ヲ發
發スルモノナリ
其經過中肝質ニ膿瘍ヲ生スルニ至テハ局
部化膿ノ鈍痛アリ之ヲ按壓スレハ其痛増加
シ且右肩胛部ニ連リテ放射スルヲ屢々アリ
而シテ其膿瘍表部ニ在ル片ハ波動ヲ觸知スベ

... 五... 圭... 藏反

診測抄 卷之五十一

シ其他黄疽ヲ併發スルハ常ニノ間脾臟ノ増大スルヲアリ

富

急性肝臟黄色乏養症 アクトテ、ゲルマ、トベ、ロビー

此病ハ卒然ニ起リ或ハ前驅症消食妨碍及リテ發スル者ニノ嘔吐或ハ血液ヲ催シ右季肋部或ハ心窩ニ壓重ヲ覺ハ此部ヲ按歴スレバ疼痛シ之ニ次テ謔語ヲ發シ兼テ展轉反側或ハ卒然人事不省トナリ多クハ全身ニ痙攣ヲ發ス躰温大ニ昇騰シ脈搏甚々疾速トナリ舌苔煤色ニシテ大便秘結シ或ハ粘土又ハ 參見

富

肝臟 トイバル、クレブス

狀ノ便ヲ泄シ或ハ下血スルヲアリ凡テ此病ノ發起スルヤ極メテ急ニ肝臟萎縮シ脾臟ハ却テ増大ス其他全身皮膚常ニ黄色ヲ呈ス且排泄スル所ノ尿酸性ナレハ「ロイチン」及「チロシン」ヲ混スレバ尿素及胆汁酸ハ消滅シテ尿跡ヲ見ズ

肝臟ニ生スル者ハ髓様癌最モ多シトシ硬癌之ニ次キ最モ稀ナルモノハ血様癌、黑色癌、囊状癌、蜂窩状癌ナリ

肝臟ニ生スル者ハ髓様癌最モ多シトシ硬癌之ニ次キ最モ稀ナルモノハ血様癌、黑色癌、囊状癌、蜂窩状癌ナリ

此病ノ始メハ消食妨碍ヲ起シ大便秘結シ偶
 右季肋部ニ壓重及ヒ充滿セルカ如キ異感アリ
 而シテ皮膚黃色ヲ帶ヒ病ノ進ムニ從テ其色
 土ノ如ク筋肉漸々削瘦シ時々肝部ニ疼痛ヲ
 起シ其痛ミ肩胛及腰部ニ放射ス又肝臟漸
 腫大ノ其前縁_下季肋縁ニ突出ス之ヲ按ス
 ニ硬固ニメ不齊ナル結節ヲ觸知ス其他黃疸
 及腹水ヲ併發スルト多シト雖ヒ脾臟ノ腫大
 スルトナシ

眞

肝臟脂化

エッ
レール

眞

肝胞蟲

エヒノコツクスデル
レール

此病ハ結核性ノ人酒客或ハ常ニ飽食スル人
 ニ發スル者ニ別ニ大害ヲ爲サズ即チ現症
 ハ肝臟少シク腫大シ其前縁ヲ觸診スルニ平
 滑柔軟ニシテ異常ノ肥大ヲ認メス之ヲ按歴ス
 ルモ疼痛ナク黃疸及腹水ヲ生セス又諛症
 脾臟ノ腫大ヲ兼サルヲ以テ頗ル判決シ易シ
 此病ノ初起ハ症候甚々不明ニシテ之ヲ診斷ス
 ルト最モ難シ然レニ蟲囊肝ノ前縁ニ於テ漸々
 發育増大スレハ從テ左ノ証状ヲ見ハズ即チ

肝臟

卷之五十一

〇五

肝臟

言出持行 卷之五十一

右季肋下部ニ於テ隆起セル半球状ノ腫物ヲ
認ノ之ヲ按壓スルニ疼痛ナク充實シテ彈力
性ヲ有シ且著明ナル波動或ハ液囊顫振百四五
見ヨフ觸知スルヲ屢之レアリ其他此病ニ黃
疸腹水脾臟肥大ヲ併發スルヲ寡ナシ

竟

門脈血塞

トロンボーズ、デル、
ポルトアーテル

此病ハ肝臟硬縮慢性腹膜炎胃癌等ニ續發ス
ルモノナレハ多クハ本病ノ諸症ノミヲ發シ
稀ニ臍ト胸骨劔状突起ノ間門脈ノ部位ニ疼痛ヲ
發ス而シテ門脈中ニ血塞ノ生成セル時ニ至テ

竟

膿潰性門脈炎

ピリツコ
ビチヌ

ハ速ニ腹水ヲ來タシ其液大ニ増加シ次テ速
ニ脾臟腫大シ又水様或ハ粘液様或ハ血液様
ノ下利ヲ傍發シ腹部ノ表在靜脈努張シ臍圍
ニ青ク腫起セル靜脈ノ輪走スルヲ見ル其他
直腸ノ靜脈モ亦擴張ス此病ニハ發熱ナシ
膿潰性門脈炎

此病ハ盲腸炎或ハ局所腹膜炎或ハ脾臟炎等
ニ續發スルカ故ニ初メハ本病ノ諸症ヲ發シ
次テ門脈炎ノ症候ヲ見ル即チ右季肋部或ハ
上腹部ニ疼痛ヲ生シ又偶盲腸或ハ臍直ニ不
。天

診新建坐 卷之五十一

章

肝生黃疸

ヘパトゲネ或ハイクトテルス吸收性

齊ノ戰慄アリテ躰温亢進シ攝氏三十六度ヨ
ルニ至且非常ニ發汗ノ喃々譫語シ或ハ昏昏眠
ヲ嗜其他皮膚黃色ヲ發シ其尿胆汁色ヲ呈
シ肝及脾臟ハ腫大ノ疼痛アリ按歴スレ増多スレテ
胆汁様ノ下利ヲ来タシ或ハ血便ヲ泄ス一屢
之アリ
此病ハ十二指腸ニ胆汁ノ流出減少ノ血中ニ
吸收セラル、ヨリ生スル者ニ其發スルヤ
初ノ腸胃症ヲ以テ顯ハル、ヲ常トス即チ胃

章

血生黃疸

ヘマトゲネ
イクトテルス

部膨滿ヲ覺ヘ食機缺乏シ舌上厚ク苔ヲ帯ビ
次テ皮膚及眼球剛膜ニ黃色ヲ呈シ尿色變メ
暗赤帶黑褐色或ハ綠色トナリ黃色ノ泡沫ヲ
生シ且常ニ胆汁酸ヲ含有ス大便多クハ粘土
ノ如ク帶白色ニ硬固ナル凝塊ヲ爲シ秘結
ス躰温昇ラス脈搏多クハ遲慢ナリ其他皮膚
ニ癢痒ヲ發シ稀ニハ眼ニ黃色ヲ見ルテアリ
又此病經久持續スル片ハ身躰漸ク羸瘦困憊
ス

新書

卷之五

五

一

一

一

此病ハ過劇ノ精神勞動、燐中毒、依的兒、及ヒ格
 羅、防ノ中毒或ハ蝮蛇咬傷毒等ノ后チ或ハ室
 扶私ト膿毒、瘴熱、黃熱、回帰熱ニ傍發スル者ニ
 ノ未タ其因理ヲ詳ニセス此病ハ恐ク血中ニ
 テ胆汁ノ生成スル者ニノ尿中ニ胆汁酸ヲ含
 マス又肝生黃疸尿色ノ如ク帶褐綠色ナラス
 大便常ノ如ク或ハ僅ニ常色ヲ減シ尿中ニ昏
 白ヲ混シ或ハ下血スルヲ屢之アリ其他精神
 大ニ減衰シ皮膚黃色ヲ呈シ脾臟腫大ス

童

胆石 ガレン
スタイン

此病ノ輕症ニ於テ著シキ苦痛ヲ起サス又屢
 觸診ニ由テ胆嚢内ニ存スル結石ヲ探知スル
 可アリト雖モ鑑識上ニ於テ最モ確實ナルモ
 ノハ糞便中ニ檢査シテ結石ヲ得ルニアリト
 ス蓋シ此病ニ於テ大ナル結石胆管或ハ胆汁
 總管中ニ箱入スルハ間歇性ノ劇シキ疼痛
 ヲ發シ其痛シ肝部ノ後面肩胛部、腹部ニ連ナ
 リテ放射線状ニ廣延ス是ヲ畧稱ノ胆其他黃疸
 ヲ併發スル者ナリ

童

第四腹膜ノ諸病ハ即チ腹膜炎、腹水、腹膜結核、腹膜

新捷徑

卷之五

。子

四

或反

癌腫是ナリ

言

腹膜炎

ペリトニチス

此病ハ初メ多クハ惡寒ヲ發シ切ルカ如キノ
劇痛アリ且屢熱温ノ著ク旺盛シ脈度ノ減却
スルコアリ腹部ハ輕按スルモ劇シキ疼痛ヲ
發シ患者好シテ仰臥シ又嘔吐シ腹吐甚タシ
ク鼓脹シテ呼吸不利ヲ發シ而シテ尿量減少ノ
深紅色トナリ既ニ滲出物ヲ生スルニ至レハ
腸骨部及骨盤部ニ於テ打音濁調ヲ呈ス其他
便秘或ハ稀ニ下利スルアリ

言

腹水病

アシチ

此病ハ腹膜間ニ液質ハ滯留スルモノニメ下
腹膨滿腹皮緊張シ其狀患者ノ位置ニ由テ交
換スヘク觸診ニハ波動ヲ徵シ打診ニハ液ノ
所在ニ應ノ少量ナルモハ濁音ヲ發シ多量ナ
レハ實質音ヲ呈ス而シテ液ハ常ニ低所ニ就テ
流動スルカ故ニ患者ノ位置ニ從テ濁音ノ界
線變換ス例之ハ仰臥スレハ腹部ノ兩側及ヒ
其兩側ニ著ク又側臥スレハ又軀ヲ動搖スレ
ハ振盪性ノ音アリ又蓄液多量ナルモハ橫隔

今行建

卷之五

三

周

歲

反

言部抄卷之五十一

膜ヲ壓上スルカ故ニ肺及心臟ノ壓迫ヲ来タ
ス其他尿量減少シ大便多クハ秘結シ或ハ稀
ニ下利ヲ發スルアリ

第五

脾臟病ハ即チ急性脾腫大慢性脾腫大豚脂
脾脾臟澱粉様變質出血性脾臟炎脾之養脾臟
癌脾結核脾臟胞蟲是ナリ

急性脾腫大

此病ハ脾臟部ニ壓重ヲ覺エ左季肋部膨起シ
試ニ此季肋縁下ヨリ手指ヲ以テ壓上スルハ
ハ脾ノ圓クノ滑澤ナル前端ヲ觸ルヘシ或ハ

慢性脾腫大

此症ニ於テモ脾臟著ク増大シテ屢其前端ノ
白線ニ達スルアリ且其縁化厚シテ疼痛ナ
シ而シテ此病ノ生スルヤ二種アリ

甲脾臟組織ノ一部或ハ全部成形過度トナル者
ニノ心臓器質病泥沼氣中毒白血病ニ於テス

乙豚脂様變質ニノ膿潰性骨疽膿潰性肺結核皮

呼吸大息セシメテ之ヲ試ルハ脾臟ノ下降
スルヲ知リ打診スルニ其濁音部大ニ廣變ス
百五十五ト百五十
六章ヲ参考セヨ

膚ノ潰瘍梅毒性 英吉利病ニ由リ甚シク羸瘦セ
ル者ニ於テシ且肝臟及ヒ腎臟ノ豚脂様實質
ヲ併發スル者ナリ

章

第六腎臟ノ病諸種アリ曰ク腎臟外圍炎曰ク腎
囊炎曰ク腎靜血曰ク腎出血曰ク脫皮性腎炎急性
腎加急性曰ク急性腎織質炎急性曰ク慢性腎織質
炎慢性病慢性曰ク慢性腎織質間炎腎臟萎縮曰ク豚脂
様腎臟曰ク腎臟脂化曰ク膿膿性腎炎曰ク腎痛
曰ク腎結核曰ク腎囊腫曰ク腎寄生物曰ク遊動
腎曰ク腎石曰ク「アツデキソン」病是ナリ

章

腎靜血スタウニク 心臓瓣膜合閉不全、左靜脈口狹窄、
肺硬結症ハバレミ、肺氣腫及ヒ靜脈血鬱積無ナル
因テ來ルハ腎部疼痛シ尿量極メテ減少シ尿
素一排泄過多トナル而シ尿ハ甚々シク濃厚
トナリ深赤色ヲ呈シ尿酸塩類ヲ沉澱ス又ク
毛細管ノ血壓過劇ナルハ尿中ニ蛋白質及
ヒ纖維性圓柱ヲ見ル但シ水腫ハ心臓病ノ續
症ナリ
脫皮性腎炎テスタクワマチー 感冒腎臟ヲ刺戟ス、キ藥
ニ因テ來ルハ發熱シ薦骨部ニ痛アリ腎部ヲ
壓スレハ痛ヲ覺フ尿量減少シテ酸性ヲ呈シ

蛋白質上皮細胞ノ圓柱ヲ含有シ且ツ屢血球
及七遊離セル有核上皮細胞但シ脂化セルヲ
見ル

急性腎織質炎

「シューテ、パーレン」
ヒマトロヒチアリキス クロラフ性腎炎、急性「ハ
マルヒギ」体及ヒ尿管ノ焮衝ナリ猩紅熱劇性

寒、胃、虎列刺、瘵、度及ヒ腎臟ヲ刺戟スベキ、藥
石ノ服用ニ因テ發シ惡寒、發熱、尿毒的症狀、頭
嘔吐、全身痛ヲ顯ハシ腎部ニ痛ミアリ之ヲ壓
スルモ亦々均シク痛ヲ覺フ尿ハ其量減少シ
テ酸性ヲ呈シ混濁シテ血色ヲ帶ブ且ツ大ニ

蛋白質ニ富ミ異重甚タ多ク或ハ全ク尿洩ヲ
廢スルアリ頭微鏡ニ依テ該尿ヲ檢スレハ則
チ多クノ赤血球、纖維性圓柱全表面均シク顆
粒状ヲ呈シ太ク
シテ且ツ屢、上皮細胞性圓管及遊離セル上皮
細胞ヲ見ル此症時日ヲ歷ルニ隨テ皮膚及ヒ
漿膜腔ニ水腫ヲ來タシ且ツ屢肺臟物膜及ヒ
心嚢ニ焮衝ヲ發ス或ハ尿素ノ中毒症ヲ呈ス
ルアリ而シテ經過ハ稍速ナルモノニシテ或ハ
恢復ニ就クモノアリ或ハ尿毒病若シクハ前
掲ノ續發症ニ因テ死ニ至ルアリ或ハ慢性ニ

轉スルアリ

重

慢性腎織質炎

一名慢性
ライト氏病

ハ屢感ノ寒冒、瘧或ハ

暴飲ニ因テ發シ或ハ急性ノ症ヨリ延遷ス初

起ハ緩慢ニシテ顔色憔悴身体倦憊シ且ツ瘦

削シ食氣消食ト共ニ減損シ惡心吐リヌルヲ發

ス腎部ヲ壓スレハ痛アリ眼瞼足踝漸ク浮腫

シ次テ之ヲ全身ニ波及ス尿意頻リニ起ルモ

快通スルヲナク尿量僅少ニシテ濁濁スレモ

血色ナシ多量ノ蛋白質不透明ハ纖維性圓柱

透明圓柱全部平等ニ及ヒ多クノ脂化セル遊

透明ナリ

離上皮細胞ヲ含有シ血液ヲ混有スル甚々稀

ナリ該症ニハ屢肺炎胸膜炎心囊炎及ヒ尿毒

的症狀ヲ合併スルヲアリ然ルモハ荏苒治愈

ニ就カズ數月ヲ經テ死ニ至ル或ハ積年前症

ヲ再發三感ニテ終ニ死ニ陥ルアリ但シ尿ハ

恒ニ蛋白質及ヒ圓柱ヲ混シ其色透明其量稍

多キノ他著シキ症狀ヲ呈セサルヲ常トス或

ハ稀レニ洩尿多量ニシテ其稠稀薄其色淡白

トナリ蛋白質ハ殆ント泯滅スルモ心臟ノ左

室肥大シ為ニ心悸尤進シ頭痛眩暈ヲ發スル

アリ是即チ腎萎縮ニ轉遷スルノ徵ナリ見ヨ
而シテ此症ニ最モ多ク頭ハル、モノハ尿ノ
異重大ニ昇ル之ナリ

慢性腎織質間炎

慢性腎織質間炎コロニヤ、インテルヌチ
チエル、チフリチス腎萎ニ於テハ腎
ノ織質間結締織肥厚シ織質之カ爲ニ萎縮消
耗ス該病ノ原因タル未タ明ナラスト雖肝
臟硬縮症ノ如ク暴飲ニ因テ来ルモノニ非ス
而シテ初メ數年隱伏シテ其起發ヲ知ル可ラ
サレ尿分泌面漸ク減減スルニ隨ヒ之ヲ補
助センカ爲ニ心臟左室大ニカヲ費ヤシ遂ニ

肥大シ心部煩悶心悸亢盛頭痛半頭痛等ノ症

ヲ發スルヲ以テ徵スヘシ尿ハ其量多クシテ
常ヲ超ヘ稀薄透明ニシテ淡黄綠色ナリ含ム
所ノ蛋白質ハ其量僅微ナレ取テ消滅スル
ナク又タ些少ノ細小透明圓柱ヲ見ル其他消
化機衰損網膜炎ノ症ヲ呈シ水腫ハ其勢度強
カラサルモ屢来往シ尿ハ尚透明ニシテ稀薄
ナルモ其量漸ク減却シ遂ニ尿毒症及ヒ胸腔
内器ノ嫩衝ヲ發シテ死ニ至ル或ハ外見全ク
强健ナルカ如クニシテ突然卒中ニ因テ死シ

又夕尿毒的描搦ノ發作數回ヲ經テ死ニ陥ル
 稀ナルニ非ス
 (附録)尿毒病尿血ヲ云フハ血中ニ尿成分過度ニ滯
 積シテ發スルモノナリ其急性ノモノニ在テ
 ハ昏睡シテ人事ヲ省セズ且ツ劇性ノ全身描
 搦ヲ發ス其慢性ナルモノニ在テハ食氣欠損
 長キニ亘リ因テ吐逆シテ止マス且ツ頭痛ア
 リ眠多クシテ終ニ昏睡ニ陥ル其他諸般ノ漿
 膜炎ニ嬰リ易ク又夕既ニ醗膿スレバ其勢嚴
 聚トシ進ミ荏苒トシ治スルノ期ナシ

童

腎臟澱粉樣變質

アミロイド、デグ 腎臟樣ハ危篤ノ慢性

病肺結核、硬骨ノ類 頑性ニ因テ羸瘦ヲ極メタル
 患者ニ發スルモノニシテ之ニ二種アリ曰ク
 汎性ノモノ曰ク「マルゼギト」体ノミニ止マル
 者是ナリ水腫シ下利シ尿量減少ス尿中少量
 ノ白色沉滓ヲ生シ尿素及ヒ食塩ニ乏シクメ
 多量ノ蛋白質ヲ含有ス尿滓ハ脂化セル上皮
 細胞、透明圓柱及ヒ脂化セル圓柱ヨリ成ル而
 シテ該病ハ豚脂樣肝臟及ヒ豚脂樣脾臟ト合
 發セサルヲ甚々稀ナリ

新書 卷之五十一 〇三七 同大藏反

眞

遊走腎及腎臟凌位ハ右腎ニアルヲ最モ多ント
ス此症ハ瘤アリ薦骨腸骨接合ノ邊若シクハ
其下部ニ於テ蚕豆状ニシテ動搖スベク且ツ
本位ニ復スルヲ得ベシ疼痛甚々微ニシテ増
大スルヲナク横臥ニ由テ屢隠匿ス而シテ意
頻數ナルモ快通ナキヲアリ或ハ處在ニ痛入
シテ甚々危篤ノ症ヲ發スルヲアリ

眞

隣接セル大陽叢ノ病症ヲ兼ヌ其發スルト甚
々緩慢ニシテ貧血皮膚變色初メ烟煤灰白ト
ナリ終ニ黒白ト

眞

種偶生ノ子ノ榮養不全及ヒ身体大ニ倦怠ス
如キ色トナル且ツ偶胃機ヲ損シ食氣乏
シ下利スルヲアリ又々屢頭痛ヲ發スルヲアリ

眞

第七腎盂腎盞及ヒ輸尿管ノ病ハ即チ腎臟水腫
腎盂炎腎盞及ヒ腎盂ノ尿石腎石疝痛是ナ
リ
腎盂炎トビエリ
チスハ腎盂及ヒ腎盞ノ病ニシテ其性多
クハ加苔児性ナリ稀レニハ偽膜性若シクハ實
布的里性ナルアリ膀胱炎ノ波及ニ因リテ發

シ背痛アリ上腿陰囊ニ波及シ尿滯滞スルヲ
常トス急性ノモノニ在テハ熱發シ嘔吐シ尿
中多量ノ粘液ヲ含ムモ尚ホ酸性反應ヲ呈シ
膿球及ヒ腎盂上皮細胞ヲ混ス又々屢血液ヲ
含有スルアリ其病原腎石ニアルモノハ身
体ノ動搖ニ由テ苦患ヲ増ス又々尿石輸尿管
内ニ箱入滯止スルハ腎疝ヲ發ス則チ腎部
ニ卒然劇痛ヲ發シ脈細小トナリ皮膚厥冷ニ
吐逆若シクハ乾嘔ヲ發シ尿意甚々頻ナルモ
尿量少ナシ此ノ如キハ六時若シクハ二十四

時間ニシテ多クハ快癒ヲ覺フ是尿石輸尿管
ヨリ再ヒ腎盂ニ復スルカ或ハ膀胱ニ至ルニ
由ル

第八章

膀胱病ハ即チ加答兒性偽膜性及ヒ實布の
里性膀胱炎膀胱癌及ヒ結核膀胱出血膀胱石膀胱
脱知覺過敏膀胱知覺鈍麻_{為一遺}膀胱麻痺_{性尿}
尿不_及休_洩膀胱痙攣是ナリ

第九章

膀胱加答兒_{カタル}感冒尿道ヨリ波及導尿管ノ
誤用膀胱内ノ異物_{尿石ヲ}ニ由テ来ル急性ニ
在テハ熱發シ尿意頻數ニシテ之ヲ洩スノ量

少ナリ洩尿ノ際劇痛アリ且ツ膀胱部ニ壓感
 フ覺フ尿ハ血色ヲ帶ビ多量ノ血液及ビ巨多
 ノ膿球ヲ含ム慢性ノモノハ急性ヨリ遷轉シ
 或ハ同因ヨリ来ルモ其刺戟輕易ナルヲ以テ
 緩慢ニ發スルナリ熱發ナク尿意頻數洩尿少
 量ハ強カラスト雖モ時々之ヲ患ヒ洩尿ノ際
 微痛ヲ覺フルアル而已尿ハ混濁シテ粘稠白
 色ノ滓ヲ生シ且ツ屢屢見加里反應ヲ呈シ多
 量ノ膿球粘液及ビ西洋封筒形ノ結晶燐酸安
 苦ヲ混スルアルモ血液ヲ含有スルナリニ
 土

而ノ急性ノモノハ速ニ治癒スルヲ得ルモ慢
 性ノモノハ遷延久キヲ經甚々頑ナルヲ屢之
 アリ

第四皮膚病

皮膚病ハ其經過ニ急慢ノ二種アリ曰ク急性曰
 慢性是ナリ

其原形ニ從テ皮膚病ヲ區別スレバ次ノ如シ則

- 点マカ 蓄疹マカ 結節ツバ 腫胞ホム 小水
- 胞ウヘ 大水胞ブル 膿胞ツラ 糠粉剝脫デフル 鱗屑剝
- 脫マカ 是ナリ

診治 卷之五十一 〇甲 問式 載反

言

急性發疹 猩紅疹、麻疹、類麻疹、ハ多ク流行病ニシテ

傳染性ナリ其發スルヤ必ス熱ヲ伴ヒ而テ其

熱屢々劇甚ナルアリ

言

急性ニシテ或ハ熱ヲ伴ヒ或ハ熱ナクノ起ル處ノ

傳染性ナキ發疹病ニ属スルモノハ即チ潮紅斑

丹毒 エリテ 蕁麻疹 カウレテ 胞叢疹 ハル 及ヒ水胞疹

言

慢性皮膚病中最モ多キモノハ乃チ濕疹 エエク

胞叢疹 ハル 疥癬 アツリ 小膿胞疹 イム 痒疹 ブル 糠粉

疹 ヒテ 苔疹 ソク 膿胞 アツク 狼瘡 ル 是ナリ

言

皮膚病ヲ更ニ別テ左ノ如クス但シ猩紅疹、麻疹、

類麻疹、及ヒ痘瘡ハ此ニ算入セス

一皮膚炎ニシテ赤色ノミヲ呈スルモノ即チ

伊潮紅斑 エリ 暫時ニ消散スル赤色ヲ呈シ

呂丹毒 エリ 始テ遷延シ赤色ヲ呈シ漸ク腫起

是ナリ是ヲ小別シテ停留性 フキ 流注性 シク 水

腫性 エリ 潮紅性 エリ 小胞性 フク 大胞性 ブル 膿

胞性 エリ 及ヒ壞疽性 カウレ モトス

波蕃微斑 エリ 所々ニ赤色ノ小斑点

二皮膚炎ニシテ蓄疹ヲ生シ其經過中他種之類

言... 卷之五

一 夢セスノ遂ニ消退スルモノハ即チ

(甲) 苔疹 小疹積簇ノ軀幹及四肢之ニ二種アリ曰ク腺病性赤褐色ニ至ル曰ク赤色苔疹

刺脱ヲ起ス暗赤色ノ疹ヲ發ス其表面ニ薄片ノ

呂痒疹 フル皮膚変色セシメ小疹ニ常ニ發シ

呈之ニ二種アリ曰ク單性曰ク續性はナリ

三 皮膚炎ニ小水胞ヲ發スルモノハ即チ

(伊) 胞叢疹 小水胞數粒ニ群集シ漸々蔓延ス

之ヲ小別スレハ左ノ如シ即チ口唇胞叢疹包

皮胞叢疹 带状胞叢疹 ツラスノ軀幹若シハ面部

シテ生ス但シ胸部モ六帯ノ中ニ及

虹彩状胞叢疹 小胞輪状ヲナシ其中央一

環状胞叢疹 小胞輪状ヲナシ其中央一

呂濕疹 小水胞ニ定形ノ群ヲナサス其

潤テ撥ス故ニ主症ハ甚シキ痒感アルヲ以テ之

性含膿性糜爛性又赤色又夕頭部濕疹顔面濕

疹乳房濕疹陰莖濕疹陰囊濕疹四肢濕疹盡縁

濕疹 陰菌 又藥毒性濕疹 膏性濕疹 是ナリ 職因

濕疹 剝脱 洗滌 濕疹 是ナリ

四 皮膚炎ニ大水胞ヲ發スルモノハ即チ

疹新集 卷之五 聖 周代藏板

伊水胞疹イスイハツシ之ヲ小別シテ般性水胞疹ハンセイスイハツシ急性急シ
 張スルモ及ビ葉狀水胞疹エフシスイハツシ慢性慢シノ所々ニ該
 奪ハ其タ死後ス胞又々特發性續發性及ヒ初
 生兒ノ徵毒性水胞疹シエイノチウドクセイスイハツシ分婉後直千四肢ニ水胞
 帶紅色ヲトス
 呂蠟殼疹ロウロウカシシ初ノ大膿胞ヲ生シ次テ崩壞シテ
 恰モ呈ス之レニ二種アリ曰ク單性曰ク膨起
 性ノモノ是ナリ

五

皮膚炎ニ膿胞ヲ發スルモノハ即チ
 伊小膿胞疹イコウノウヒハツシ之レヲ患フルモノハ必ス腺
 病家ナリ而シテ合膿濕疹トス

呂大膿胞疹ロウダイノウヒハツシ潰瘍トナリ屢々蠟殼ロウロウカシ之レヲ
 別テ特發性續發性羸瘦性及ヒ徵毒性ノモノ
 類似スルモノアリ

六

皮膚炎ニ表皮ヲ剝離スルモノハ即チ
 伊糠粉疹イコウコシシ剝離ノ如キ表皮細片コシシ之レヲ別
 一單性始ニ赤色糠粉疹コシシ雖ヒ其皮片剝離ニ因テ
 帶赤色及ビ赤色糠粉疹コシシ經ルモ慢性ニ因テ
 暗赤色ニ變スル而シテ患部トス
 呂片癬ロウヘン剝離スルモノハ表皮片コシシ之レヲ別

周代載反

狀黃狀環狀蛇行狀血狀及微毒性

必四肢屈面生之手掌一他種生

微毒家ノトナマ

波魚鱗群イシト燥肥厚ノ所謂鱗

之レニ小鱗狀ト大鱗狀ノ區別アリ

皮膚炎ニ腫胞ヲ發スルモハ即チ

蕁麻疹カリテ毒虫若シハ刺レテ其

數般原由アリ又タ偶々發之レテ外因性

九テ皮膚ノ刺戟ニ中毒性蟹之類及

因リ發スルモノナリ子宮殖器病及

及ヒ内因性子殖器病如

八皮膚破血 ハウトヘモ 皮膚下出血 ハ 即チ

伊点状破血 ベテヒ 又ト云フ

呂線状破血 チエス 又ト云フ

波不正形破血 ニシモ 不正形ノ血班ト云フ

疹心藏病等ニ於テ皮膚下

出血ノ屢々紫黒色ヲ云フ

仁紫班 アル

九皮膚炎ニノ結節ヲ生スルモノ

伊狼瘡 ル 皮下結節ヲ生シ此ノ結節腐壞シテ

骨ヲ崩壞ス深部ニ侵入シ其甚シキニ至テハ硬

其所在ハ顔面部ヲ主トシテ之レヲ別テ單性

匍行性大結節性蠶蝕性潮紅性ノモノトス

分科書 卷之五十一 四四

呂癩病 此ハ所々ニ結節ヲ生シ遂ニ腐壞ノ大

ハ該患ノ麻痺ヲ来クス但シ狼瘡トノ主差

波象皮病 又々象様該患ハ重ニ体ノ下部ヲ侵

唇等之レカ為ニ非常ノ肥大ヲ受ク但シ陰囊大陰

十皮脂腺病ハ即チ

伊脂漏 セボルニ脂腺ノ分泌過度ナルニ由ルモノ

呂粟粒疹 ミリ皮脂腺内ニ貯積

波粉刺 皮脂腺内ニ貯積シ硬固トナリ

仁膿泡 皮脂腺内ニ貯積シ膿ヲ生ス

呂波仁ノ三種ハ凡テ皮脂腺排泄管ノ閉塞

ヨリ来ルモノナリ

士寄生の皮膚病 但ニ次ニ掲ル處ノ伊ノ動物

伊疥癬 エスカビ 此ノ症ハカススカビト稱スル

由テ發スル

呂蜂窠瘡 此瘡ハ頭皮ニ生スルモノニ

此瘡ヲ剥離スレバ出血シ易キ陥凹ヲ見ル

波刺髮匐行疹 ヘルペストト稱セル寄生物ノ為ス

漸テ頭上ニ円形ナル赤班ヲ呈シ毛髮脱落シ

漸テ周圍ニ蔓延シ其部恰モ剃刀ヲ用ヒタル

カ如シ又ク此ノ部ニ水胞蓄疹膿
胞ヲ生スルアルモ常ニ乾燥ス
在局所充頭 アレヤチエ 頭部ノ局所毛髮脱落其
ルニ所々膨大スル所アリ之ニ即チ「ミク」スボ
ニ「アカド」ト稱スル寄生生物ノ集積スルニ起因
ス

保異色糠粉斑 ポテキリアジ 黄色若シクハ淡褐色ナ
面ヨリ糠枇様ノ表皮ヲ隆起ス是ト「ミク」スボ
者ノ如キニ 寄生生物ノ所為ナリ此症肺病患
於其少多ニ

遺陰部及ヒ腋窩ノ赤班 エリト 該部ニ赤色ヲ呈
ニ湿润ス此レ「ミク」スボ「ロ」ニ「ユ」チ「ス」モ
ブルゲルトト稱スル寄生生物ノ所為ナリ

診斷捷徑卷之五ノ二

獨逸 ハーゲン氏 著

日本 岡玄卿 譯

第五腦及其衣膜病ノ諸徴

腦病及腦膜病ノ最モ主タルモノハ即チ硬腦膜
炎、薄腦膜炎又單腦膜流行性腦脊髓膜炎、腦膜出
血、腦充血、腦貧血、腦水腫、腦出血(即チ腦質出血
腦軟衝及硬化、膿腫、腦ノ諸瘤、腦萎縮、腦動脈遊栓
及ヒ坐栓 ホーレン 急性及ヒ慢性腦水腫、腦實ノ坐
栓是ナリ

新編
大藏
反

九テ頭蓋腔内器ノ病症ハ多クハ彼是相參互錯雜ニ確然各自ノ主症ヲ獨發スルコト少ナシ是レ其鑑識ノ至テ困難ナル所以ナリ

急性ノ腦病及ヒ腦膜病ハ曰ク炊衝曰ク出血曰ク栓塞曰ク貧血曰ク多血曰ク水腫是ナリ慢性ノモノハ曰ク腦炊衝曰ク腦ノ諸痛是ナリ

亘ニ發熱ヲ以テ起ルモノハ腦膜炎及ヒ卒中後ノ腦炊衝ナリ頭蓋腔内器ノ諸病ニ由テ顯ハル、所ノ症状ハ專ラ官能的障害ナリ今之ヲ大別シテ刺衝症ト抑

章

過症ノ二種トス又々他別シテ知覺運動及精神ノ障害トナス但シ理學的徵候ハ甚々僅々ニシテ且ツ至テ幽微ナリ

知覺刺衝症 センシティブルライツング ハ即チ頭痛、頭重、額部及ヒ眼窩内ノ壓感、眩暈、閃光、耳鳴、光感過敏、響感過敏、皮膚知覺過敏、癢感 蟻走感、是ナリ

知覺抑過症 センシティブルデプレッション ハ即チ諸種ノ麻痺、視力減損、聽力減損若シクハ盲昧、聾聾是ナリ

運動刺衝症 モトリックハライツング ハ即チ筋惕肉跳、搐搦、攣縮、局部若シクハ全身痙攣、瞳孔縮小、瞳孔不動、斜視

章

診新捷徑 卷之五十二 岡田清

言語拙鈍
眼球妄動是ナリ
運動抑遏症
數筋ノ虚弱若クハ麻痺古ノ運動不全、口角垂下、眼瞼弛垂、一象ヲ見テ兩象ト誤視ス、瞳孔散大是ナリ

重

迷走神經刺衝症
迷走神經ノ麻痺症
呼吸更ニ緩徐トナリ時々將ニ遏止セントスルノ状ヲ顯ハス是ナリ

重

迷走神經刺衝症
迷走神經ノ麻痺症
呼吸更ニ緩徐トナリ時々將ニ遏止セントスルノ状ヲ顯ハス是ナリ

迷走神經刺衝症
迷走神經ノ麻痺症
呼吸更ニ緩徐トナリ時々將ニ遏止セントスルノ状ヲ顯ハス是ナリ

重

精神刺衝症
思騷擾、妄想、謔語是ナリ
精神抑遏症
昏惰、嗜眠、昏睡、是ナリ

重

腦ノ各部ハ各自特異ノ官能ヲ司ドルカ故ニ其發頭スル各異ノ官能障害ニ頼リテ屢、頭蓋腔内ノ病患所在ヲ徵知スルヲ得ルベシ

重

腦凸面ノ病患
大神經節
運動障害ヲ起スヲ常トス且ツ偶知覺障害ヲ

診新捷症
卷之五
三
月
或
反

言語辨別 卷之五十二

ヲ無ヌルアリ

■

大脳半規若シクハ大脳脚偏側但シ交ニ病アル

片ハ反對ノ偏身ニ官能障害ヲ起ス之ヲ偏身

症状ト云フ

■

シルガ^井窩左側ニ病患アルハ偏身症状ノ他

普通ノ規語言語、算數、文字、勘定ヲ理解スルヲ克ハサル

カ又ハ之ヲ辨用スル能ハサルノ症即チ言語

忘失、文字忘失、算數忘失、勘定忘失ヲ發ス

■

腦底部ノ病患ヒルシハ該部ヨリ出ル所ノ神經

ノ官能障害ヲ起スヲ以テ微知スベシ底部ヨ

■

腦底部ノ偏側ニ病アルハ之ニ因リテ侵サル

ル所ノ神經官能障害モ亦同側ナルヲ最モ多

シトス

■

身体兩側ニ運動障害若シクハ知覺障害ヲ呈シ

且ツ腦神經ノ病狀ヲ發スルハ則チ「^アアロ^リ」橋

延髓若シクハ小腦ノ病患ナルヲ微知スベシ

局足症狀ハ所謂一般頭症狀ト相反シ頭腔内ノ

一局部ニ病患アルヲ表スルモノナリ乃チ偏眼

■

診新捷徑

卷之五十二

四〇

同代反

閃光、視力減衰、失明、偏眼瞳孔ノ散大或ハ縮小、
偏耳ノ騷鳴、重聽、耳聾、局部頭痛、偏身痙攣、偏身不
遂、偏身神經痛ノ如キ之ナリ

次條ニ於テ腦病各自ノ鑑識ニ至要ナル件ヲ單
簡ニ論載ス

凸面腦膜炎ハ高熱ヲ以テ起リ脈數大ニ増シ劇
甚ノ頭痛及ヒ他般ノ知覺刺衝症ヲ呈シ精神
興奮、搐搦、瞳孔縮小、嘔吐等アリ又々便秘スル
ト多ク尿中蛋白ヲ見ルモ亦々甚々多シ其
已ニ第二期ニ至テハ高熱、頭痛、莖止マラス



眞

脈搏大ニ遲緩トナリ精神抑鬱シテ全身搐
搦、項部強直及ヒ瞳孔散大ヲ呈ス但シ該期ニ
於テハ殊ニ神識ノ障害ヲ著シトス

底面腦膜炎

結核性腦膜炎、急性腦水腫

ハ小兒ニ發スルコト

最モ多ク其初起大抵緩慢ニシテ甚々不明ナ
リト雖モ一周以外ニ至レハ劇シキ頭痛ヲ發
シ怪夢ヲ結ンテ叫覺ス且ツ嘔吐便秘アリ瞳
孔縮小シ項部強直シ熱發シ脈數增加ス期進
ンテ茲ニ至レハ則チ以テ此病ヲ鑑識スルニ
足ル然リ而シテ屢々全身痙攣ヲ發シ及ヒ偏

真 真

流行性腦脊髓膜炎ハ三百十九章ニ讓ル
腦卒中風ハ變質セル脈管ノ破裂ニ由テ血液ノ
身麻痺、偏身搐搦、斜視ヲ呈シ、瞳孔ノ散大、縮小
交々來リ、視力ノ障害、知覺及ヒ精神ノ抑遏、暗
痴呆、切齒、不脈度ノ遲慢若シクハ呼吸ノ不齊
ヲ視ルルキハ則チ其監識愈、確實ナリトス
末期ニ至リ死亡ノ十二時前乃至廿四時前ニ
於テハ脈搏大ニ疾數トナリ昏睡ニ陥リ遂ニ
膀胱及ヒ肛門ノ括約筋麻痺シ兩便失禁ヲ來
ス

腦實質中ニ溢出スルヲ云フ是レ大脳半規ニ
多ク大脳脚ニ稀ナリ病側ニ相反スル四肢顔
面及ヒ舌ノ偏側ニ運動麻痺ヲ呈シ又偶知覺
ノ麻痺ヲ兼マルアリ但シ偏側恒ニ悉ク侵
サルハニ非ラス其障害モ亦々各部ニ於テ強
弱アリ而シテ溢血多量ナレハ初メ腦質ヲ壓
迫シ二三日ヲ經レハ出血ノ周圍ニ反應性焮
衝ヲ發ス此症ヲ患フルハ多ク高年ノ人ニア
リ
此病、初起ハ突然若シクハ暫時ニシテ人事

六
反

ヲ覺省セス且仆倒ス恰モ衝突ニ由テ然ルモ
 ノ、如シ呼吸不整ニシテ且ツ斬聲ヲ帯ビ脈
 至極メテ遲慢トナリ頸動脈ノ搏動至テ強ク
 瞳孔縮小シ諸般ノ括約筋麻痺シ嘔吐ヲ發ス此
 症狀ヲ視ルハ則チ此病タルヲ識ルベシ
 人事不省醒覺スレハ其次日ニ於テ著シキ偏
 身不遂ヲ来シ是レ此病ノ確徵タリ且ツ精神尚ホ少シ
 ク朦朧トシテ未タ故ニ復セズ言語意ニ隨ハ
 ス其他知覺機尤進シ麻痺七部ニ播擲若シクハ
 寧縮ヲ呈シテ少シク發熱ス

窒

爾后ハ唯此病ノ確徵タル偏身不隨知覺及レ運動共ニ
 之ニ殘スノミ
 窒ルガ井一窩動脈ノエンボリ遊ハ血中ニ漂流スル
 凝塊ノ此動脈ヲ栓塞スルノ名ナリ故ニ此症
 ヲ發スルニハ必ス先ツ心臟ト此動脈ノ間々
 ニ凝塊ヲ生マル処ノ原由ナクニバアルベカ
 ラス心臟瓣膜病大動脈若シクハ普通頸動脈
 ノ瘤ハ即チ其原由トナル而シテ遊栓ヲ受
 ルハ必ス左方ニ在リトシテ可ナルカ如シ
 エンボリ遊ニ此動脈ヲ栓塞スルニ由リテ發起

今下連至
 六二五二
 七
 同
 七
 反

言語失用 右之五二 腦腫瘍

スルノ主症ハ忽然来タル処ノ大脳主要部ノ
急劇ナル貧血ニシテ反側ノ偏身不隨。言語不
如意舌麻痺ニ因等ノ官能障害ヲ発ス但シ此
ノ障害ハ時日ヲ經ルノ後チ多少輕快ヲ得ル
モノトス而シテ此病ニ罹ルノ年齢ニ定期ア
ルナシ若シ病卒中状ヲ以テ起リ右側偏身
不隨ヲ發シ屢言語忘及ヒ心臟辨膜病左心ニ
若シクハ大動脈又ハ普通頸動脈瘤該動脈
音及ヒ蜂聲ヲ認ムレハ則チ其鑑識者明ナリ
腦腫瘍及ヒ腦膜腫瘍ハ頭蓋腔内局部ノ新生物

瘤腫肉腫徽毒腫結核
胞蟲軟脈瘤等是ナリ
増大スルモノニシテ其増大スルト共ニ其症
状増劇ス而シテ腫瘍ノ發生シタル局部若シ
クハ之ヨリ生スル神經ノ官能障害及ヒ刺衝
ニ因テ頭ハル、処ノ症状ニ依リ或ハ所謂一
般ノ腦症ニ依テ之ヲ鑑識スルヲ得ベシ
此腫瘍ヲ知ラント欲セハ左ノ症状漸次増劇
スルニ意ヲ注カズンバアルベカラス
其一頑性頭痛時々増アリ其發スルヤ必ス一
定処ヨリス又々眩暈ヲ發シ時々嘔吐ス其他

言語失用 右之五二 腦腫瘍

精神抑遏症人事不省失神及搐搦殊ニ偏身ノ發作アリテ渾身知覺過敏ヲ呈シ多シトス身體衰弱ス其ニ腦ノ一定部若シクハ神經ノ一區部ヨリ發スル症狀ニシテ例令ハ一膊若シクハ偏身ニ麻痺或ハ掌縮又ハ搐搦ヲ發シ局処ニ知覺過敏若シクハ鈍麻ヲ呈ス又々腫瘍ニ隣接スル腦神經麻痺ニ或ハ刺衝ヲ受ク其他反側ノ偏顏麻痺ニ偏身不隨トナル之レ大脳神經節(例今練狀体ノ如シニ類テ)腦底ヲ通過スル神經ヲ壓且ツ視神經炎ヲ發迫スルハニ於テ然リ

臺

以上述ブル処ノモノヲ畧言セバ則チ一般腦症ト局処症狀トノ漸ク發シ漸ク増劇スルヲ参考セハ其鑑識ヲ得ベシ又々運動神經其起根部ニ於テ侵サル、ヤ將タ其經過部ニ於テスルヤハ電氣ヲ試用セハ確知スルヲ得ベシ即チ電氣ニ由テ筋收縮ヲ起セハ起根部ノ侵サレタルヲ知り否ラサレハ其害經過部ニアルヲ知ルベシ腦實質炎腫腦膿ハ自發スルト殆ント之レ無ク多クハ打傷若シクハ近隣内耳炎ノ波及ス

新變症 卷之五十二 九

ルニ由テ起ル膿毒病ニ於テハ遊症ニ由テ發
ス而シテ漸々増大スル其ハ其症腫瘍ト大同
小異ナリ然レモ局外症狀ハ腫瘍ニ在テハ逐
次増劇スルモ腦實質炎ニ於テハ或ハ増劇シ
或ハ減退シ時々増減アルアリ

慢性腦水腫ハ腦室中ニ水液滲漏溜留シテ之ヲ
著シク廣大セシメ爲メニ腦實質ヲ壓迫シ且
頭蓋骨ヲシテ其接合ヲ離開セシムルモノナ
リ
此症ヲ患フルモノハ頭巨大トナリ神識大ニ

衰ヒ遂ニ痴鈍トナルニ至ル其他全身筋力薄
弱ニシテ歩行整ハス且物ヲ握操スルノ力甚
々弱ク加之時々全身搐搦ノ發作アリテ嘔吐
頭痛ヲ訴フルヲ以テ鑑識スベシ

第六 脊髓及其衣膜病ノ諸徵
脊髓及其衣膜諸病ハ即チ急慢性ノ脊髓膜炎
脊髓充血、脊髓及脊髓膜ノ出血、脊髓中脊髓炎、脊髓
勞是レナリ
熱性脊髓病ハ即チ急性脊髓膜炎及急性脊髓炎
ノミ是ナリ

新捷徑 卷之五十二 二十

言語抄録 卷之五十二 岡田 茂樹

三

症候ノ區別ハ腦及ヒ腦膜病ノ如ク運動及ヒ知
覺機ノ刺衝ト抑過ノ二般トナス

三

運動機刺衝症 モトリセハ即チ拮掣 モトリセ 數筋ナルアリ數
緊張、攣縮、痙攣等ニ呼吸筋之レニ罹ルハ

三

胸廓ノ運動ヲ廢止シ氣息大ニ困難トナル
運動機抑過症 モトリセハ即チ一筋 例之膀胱射尿管

三

拮約筋等 若シクハ數筋ノ衰弱或ハ麻痺等ニ
シテ其發現ハ凡テ下部ニ始マリ漸次上部ニ

三

波及スルヲ常トス 且チハ即チ背痛 或ハ特發シ或

知覺機刺衝症 ライツングハ即チ背痛 或ハ特發シ或

三

或由ハ運動ニ棘状突起若シクハ横突起及疼痛
皮膚及ヒ筋ノ知覺過敏神經痛等ヲ發シ胸圍

三

緊張或ハ足跛ノ壓感ヲ覺ハ其他反射機亢進
シ膀胱ノ射尿管及ヒ拮約筋ノ機能變常ヲ呈

三

スルカ如キ是レナリ
知覺機抑過症 モトリセハ知覺鈍麻及ヒ筋ノ知覺

三

不全 筋ノ感覺或却スレハ 知覺鈍麻及ヒ筋ノ知覺
等是レナリ 四肢運動不全トナル

三

協同機能障礙 コオロウキノウサマヒハ知覺運動ノ両機ニ関
起スル症ニノ操作運動スルモ常ノ如クナラズ

三

協同機能障礙 コオロウキノウサマヒハ知覺運動ノ両機ニ関
起スル症ニノ操作運動スルモ常ノ如クナラズ

新捷徑 卷之五十二 岡田 茂樹

言... 九三三

或ハ不隨意且ツ微弱ナルカ如ク或ハ他筋ノ作用ヲ偶發シテ操作ヲ妨クルヲアリ然リト雖正敢テ筋力ヲ失フニ非ルヲ以テ其勳ヲ等ニ於テ害アルヲナシ故ニ歩行スルモ踉蹌タリ

重

兩側不遂症ハラフ截癱ハ即チ脊髓症ニノ腦病ト反シ精神症ヲ併發スルヲナク左右兩側殆ント平等ニ侵サルヲ常トス半身症ヲ顯ス而ノ多クハ巨大部ノ官能障碍ヲ將來スル者ニノ殊ニ体ノ中部及ヒ下部ニ於テ然リトス

重

急性脊髓膜炎ノニギヤチススヒナリリスアクトクハ熱ヲ以テ發シ甚キ知

覺及ヒ運動機刺衝症重症ニ於テハ胸ヲ呈シ部ノ諸筋モ然リ速カニ運動抑遏症膀胱及ヒ直腸ヲ繼發スル拮約筋麻痺ヲ以テ鑑識スベシ

重

慢性脊髓膜炎ノニギヤチススヒナリリスコロニカハ或ハ特發シ或ハ急性症ヨリ轉移ス其發症ハ始メ知覺及運動ノ刺衝症甚シカラスノ直チニ知覺抑遏ノ輕症及ヒ漸次増進スル所ノ運動抑遏症足部輕微ノ麻痺歩行跚ノ障礙等ナリ併發スルヲ以テ鑑識スベシ

重

急性脊髓炎ニエリナスアクトクハ大概急性脊髓膜炎ヲ併發

急性脊髓膜炎 大概急性脊髓膜炎ヲ併發

スルヲ以テ始ノ其症状汗發熱背痛甚ク、軀幹諸筋剛強ニノ疼痛ナリ、且ツ四肢ノ知覺過敏トシ、爲ノニ掩蔽セラルト雖、爾后完全ナル截癱ヲ發スルニ至レバ則チ脊髓炎タルト明瞭ナリトス

慢性

慢性脊髓炎

慢性

特發症ハ慢性脊髓膜炎ノ症

状ト監別スルト甚ク難シ然レハ初メ知覺及ヒ運動刺衝ノ輕症ヲ發シ次テ著キ運動抑遏症ヲ呈スハ該炎タルヲ洞察スヘシ
又夕創傷若シクハ椎骨腐疽ニ因テ重症ノ脊髓炎ヲ發シ爲ニ脊髓神經ノ傳達機殆ト絶

慢性

慢性

慢性

止シ從テ其神經分布ノ部ニ於テ反射機ノ亢進ヲ顯ハシ併セテ完全ナル知覺及ヒ運動ノ麻痺症モ亦發スルト屢々アリ
脊髓勞傷クーパー氏ノ所謂後條ノ灰白質ノ衰廢ニシテ其衰廢ナルモノナリハ脊髓後條ノ灰白色變質ニシテ其症状ハ初メ知覺機ノ刺衝症ト抑遏症ト交相發シ漸ク増進且ツ上行シテ遂ニ專ラ抑遏症ヲ發現スルニ至ル又タ運動機ノ刺衝症ハ著シカラスノ協同機能ハ衰弊シ兩眼ヲ閉テ直立スルトシテ膀胱直腸及

多尼性強直 舞蹈病、歇私底里、小兒特發筋瘦削、延
髓球麻痺、蔓延性筋瘦削、原發散在硬化、振顫性不
遂是レナリ

癲癇エビレバ ハ時々痙攣ヲ發作スル所ノ慢性病ニ
ノ其發作タルヤ時期一定ナラスト雖モ初メ
多クハ號叫シテ全身ノ諸筋ニ強直痙攣ヲ發
シ次テ搐搦ヲ起シ人事全ク不省トナリ大約
十五分時ノ後ニ至レバ諸症鎮靜シ竟ニ睡眠
ニ移ルモノナリ而シテ發作中其舌縁ヲ咬傷シ
爲メニ癩痕ヲ殘ス者多シ是レ病歴上ニ於テ

急癲

鑑識ニ缺ク可カラサルノ一徵トナスヘシ
其他蓄留性癲癇アリ即チ二日乃至四日間殆
ニト間断ナク發作スル者ニノ竟ニ死ニ陥ル
モノ是レナリ
急癲エビレバ ハ全身痙攣ノ及覆發作ス
ル症ニシテ其間歇時ハ短ク發作時ノ長キヲ多シ
トス而シテ發作間ハ人事全ク不省トナリ或ハ
間歇時ニ至ルモ醒覺セサルヲ屢々アリ
産婦急癲ハ分娩前若クハ其際若クハ其後ニ
於テ發スル所ノ症ニシテ長ク神識ヲ失ヒ舌咬

新編 卷之五 五十五

傷シ脉搏硬實ニシテ稍疾速トナリ体温ハ僅カ
 ニ增多シ或ハ常ノ如キトアリ
 而シテ該病ハ劇烈ノ神經刺戟ノ分婉ノ
 際或ハ其前後ニ傍發セル尿毒症ニ因テ起リ
 尿中ニ屢々多量ノ蛋白質ヲ見ルトアリ其經
 過ハ二三時ヨリ數日間ニシテ竟ニ亡命スルア
 リ或ハ恢復スルモノアリ
 小兒急癇ハ甚シキ腸ノ刺戟失食餌過高度ノ熱
 症_{實布の里猩紅熱}因_{頭炎肺炎等}若クハ驚愕ニ因テ發ス
 者ニシテ熱度甚ク高進シ脉搏實ニシテ數日
 底

強直性

強直性_テ痙攣_ハ脊髓運動部_ニ延髓_モ之_ハ刺衝機
 旺盛ニ因ルト雖モ未ダ解剖的_ニ著キ變化ア
 ルヲ知ラス其現症ハ全身或ハ局部ノ筋ニ強
 劇_クノ收縮ヲ發作スルニアリ其原因ハ創傷_ニ殊
 四肢_ニ於ケルヲ或ハ劇甚_クノ感冒_之レヲ痙攣
 破傷風_ト云フ又初生兒ノ強直性痙攣ハ臍帶ノ
 痙攣_トナリ又初生兒ノ強直性痙攣ハ臍帶ノ

強直性痙攣ハ脊髓運動部ニ延髓モ之ハ刺衝機
 旺盛ニ因ルト雖モ未ダ解剖的ニ著キ變化アルヲ知ラス其現症ハ全身或ハ局部ノ筋ニ強劇クノ收縮ヲ發作スルニアリ其原因ハ創傷ニ殊四肢ニ於ケルヲ或ハ劇甚クノ感冒之レヲ痙攣破傷風ト云フ又初生兒ノ強直性痙攣ハ臍帶ノ痙攣トナリ又初生兒ノ強直性痙攣ハ臍帶ノ

創傷ヨリ發スルヲ以テ破傷風ニ算入シテ佳ナリ
 其主徵ハ始メ項部ニ強剛ヲ覺ヘ咀嚼諸筋緊張シ次テ項部及ヒ背部諸筋ニ強直痙攣若クハ緊縮ヲ起シ牙関緊急ニ横隔膜及ヒ胸部ノ諸筋痙攣ヲ發シテ呼吸困難トナリ四肢ノ諸筋痙攣ノ強直トナル又ハ顔面筋侵サルハ片ハ面貌異状ヲ呈スルニ至ル其他熱發シテ甚々高度ニ達ス者ニ重症ニ在テハ發汗淋漓ノ反射機大ニ亢盛ス然レモ其神識ニ於テハ常

ニ完全ノ障害セラレ、トナシ
 以上諸筋ノ痙攣性収縮ニ由リ身体ノ形状ヲ異ニスルト左ノ如シ即チ右方反張^{ラバースト}前方彎屈^{エムプロス}側方彎曲^{フロイロ}真直位^{ラルト}是レナリ而シテ痙攣ヲ起スルハ筋縮甚クノ硬固ナルト殆ント板ノ如ク且ツ非常ノ疼痛アリ其發作ノ時期不整ナリト雖モ病勢増進スルニ從ヒ連綿持續シ殆ント間断ナキニ至ル然リ而シテ動搖抵觸微風ノ如キ些少ノ刺戟ヲ受クルカ或ハ体位ヲ變スルカ如キモ直ニ發作シ

星

或ハ因ナクノ特發スルヲアリ其發作時間モ亦長短一定ナラス甚キニ至テハ一時間餘ニ至ルヲアリ然レモ良性ノ症ハ發作漸ク其數ヲ減シ從テ其時間短縮シ大概數月ヲ出テズニ全治シ惡性ノ症ハ死前ニ先ツ熱勢甚ク昇騰シテ攝氏四十三度乃至四十四度ニ至ル殊ニ呼吸困難ニ由テ死スル者ニ於テ然リトス以上記載セル如ク諸症判然タルヲ以テ該病鑑識ハ容易ニ誤ルヲナシ

的多尼性強直性痙攣ハ貧血ニノ且ツ虚脱セル患者ニ

星

傍發スル所ノ稀有病ナリ其症狀タルヤ兩肢同名ノ筋ニ局部不整ノ強直性痙攣ヲ發作シ其時間屢々長クシテ疼痛甚クシキヲアリ然レモ其神識ヲ失ハサルヲ常トス其主徵タルニ患肢ニ布蔓スル動脈ノ主幹ヲ壓抵スルハ直チニ該肢ニ痙攣ヲ發スルニアリ是レトロンノ氏ノ實驗セシ所ナリ

舞蹈病ハ專ラ女子ノ可婚期ニ於テ發スル病ニシテ其持續大約二十週以内ナルヲ常トス之レニ罹ル者ハ多ク貧血ニノ且ツ癩麻質私ニ

新書
卷之五三
阿比菲

起因スルヲ屢々アリ然レモ其解剖的變化ハ未々吾人ノ全ク知ラサル所ナリ其主症タルヤ運動系ノ刺衝機非常ニ亢進スル者ニテ都テ隨意ノ運動ヲ管ム毎ニ意外ノ運動ヲ傍發シ爲ニ其意主ヲ妨ケラレ或ハ全ク之レヲ爲スノ克ハサラシム故ニ患者言語ノ際奇怪ノ容貞ヲ呈シ或ハ物ヲ握取セントスレハ上肢ヲ種々ニ迴動ノ怪異ノ状態ヲナシ或ハ歩行スレバ不整ニシ且躓蹶セントスルカ如シ是レ其監識明了ニシテ毫疑ヲ埃タサ

夏

ルハシ

歇私的里ハ専ラ婦人ニ現ハル、病ニノ發生最

モ緩徐ナリ其症狀ハ精神運動殊ニ知覺機ノ

刺衝不眠、痙攣、疼痛ト抑遏症神思鬱閉、運動ノ

錯雜セル者ニシテ其患苦或ハ増盛シ或ハ減退シ或ハ頓ニ消滅スル等一定ナラス是レ即

チ著キ解剖的ノ原由ナキヲ以テナリ其他該

病ハ多ク生殖器病子宮炎等ヲ合併ス又々屢發ノ

症候アリ即チ歇私的里性頭痛及ヒ梅毒氣又

歇私的里是レナリ甲ハ箭狀縫合ノ傍ニ於テ

錐穿性 冷モ錐ヲ以テ 偏頭痛ヲ云ヒ乙ハ球
 狀物ノ逆行シテ咽頭及ヒ胸上部ヲ填塞スル
 カ如キ感覺アルヲ云フ

夏

特發筋瘦削

エスチエニキエル
 キンデルレームシダ
 小兒脊
 髓麻痺

ハ發熱ヲ以テ起ル

所ノ屢々 腦膜炎 小兒病ニシテ一肢若クハ數筋

ニ不遂症ヲ呈シ 下肢ヲ多 次テ筋肉削瘦シ或

ハ截癱ニ陥ル アリ然レバ一肢ノ諸筋全ク

侵襲セラルル者ハ未タ曾テ見サル所ナリ

此病ハ恐ク脊髓ノ局所炎ナラニカ而シテ其監

識ハ容易ニノ誤ル ナシ

夏

延髓球麻痺

ハラバール
 ハ

大人ニ於テ或ハ特發シ或

ハ重病 實私私痘瘡 ノ經過中ニ發發スル病ニ

ソ即チ腦第四室ノ基底ニ位セル神經中樞延

球ノ疾患ナリ

其症候ハ初メ舌ノ麻痺ヲ慢發シ次テ軟口蓋

及ヒ口唇諸筋ニ波及メ言語滯滞ニ漸ク咀噉

及ヒ發聲困難 咀噉 筋及ヒ喉頭諸ヲ來シ竟ニ

麻痺セル諸筋削瘦シテ言語全ク辨スル能ク

ガルニ至ル加之心臟痙攣呼吸困難等ノ發作ア

リ而シテ其死ニ陥ルヤ或ハ飢餓或ハ併發ノ

言語検査 光三三

病ニ由ル者ニメ經過ハ多クモ三年ヲ歴ルナシ

其他病機若シ脊髄ニ蔓延スル中ハ所謂進行性筋瘦削ヲ合併スルヲ稀レナラス

蔓

蔓延性筋削瘦

プログ्रेसイブモスルアロヒト

大人ニ發スル一種ノ稀

有病ニメ先ツ上肢ノ諸筋ニ始リ三角筋、指筋、漸ク進テ他肢ノ筋ニ蔓延スルヲ常トス乃

チ之レニ罹ル所ノ諸筋ハ削瘦シ収縮力モ亦少從テ減少シ且ツ筋腸肉腫ヲ起ス甚ク多

是ヲ以テ鑑識最モ明亮ナリトス

又ク許多ノ神經病ニ於ケル如ク電氣検査ニ白ハ尚ホ詳細ノ診断ヲ得ルト雖モ熟凍家

蔓

原發散在硬化

アトノヒムルチアリトマクローセ

ハ腦及ヒ脊髄白質ノ

所々ニ結締織肥厚、軟骨様ニ硬化シ灰白質

少爲ニ患部ノ神經組織消滅シテ官能ヲ廢止スルモノナリ

其周圍ノ組織一於テハ變化ヲ受ケサレテ以テ官能モ亦々常

ル者ナリ其症状ハ始メ偏脚若クハ両脚ニ輕微ノ運動不遂ヲ發シ續テ上肢ニ波及ス故ニ運動或ハ操作ヲ管ントスレハ振戦ヲ起シ且

言語検査 光三三

重

振顫性不遂

ハラリスハ
アキタニス

老人病ニ其主症ハ渾身ノ

ツ當為ヲノ速セニスルヲ克ハス又々歩行ハ
足ヲ地ニ曳クカ如クニ地ニ投スルカハ足ヲ
聲嘖ノ音調ナク頭部ハ動搖シ又々眼病如クス
斜視視力ヲ發シ時々眩暈ス而ノ末期ニ至レ
減衰等ハ患部ノ諸筋緊縮シ精神變常抑壓若クシ
下困難及ヒ言語不調トナリ全身衰脱々瘰瘡
ヲ生スルニ至ル然レモ著ク知覺ニ妨碍ナク
脊髓勞ト又々膀胱直腸ノ機能ハ變セテモ
相及ス

言語不遂

老人病

渾身ノ

振戰スルニ在リ其發スルヤ劇甚ノ神勞ニ因
リ卒然ニ來ルアリ或ハ經久ニ寒冒若クハ神
經創傷ノ刺戟ヨリ緩徐ニ起ルアリ而シテ始
ハ一肢ニ見ハレ増進メ漸ク全身ノ諸筋ニ及
ヒ常ニ振戰ノ止マス或ハ患肢ニ先ツ疲勞若
クハ壓重ヲ覺ヘ次テ振戰症ヲ發スルアリ
而シテ遂ニ顔面及ヒ四肢ノ諸筋強剛トナリ為
ニ言語及ヒ諸般ノ運動困難トナリ又々歩行
スルハ前方ニ顛倒スルカ如クシテ自然疾
歩ノ状ヲ呈シ其他皮膚熱感ヲ覺ヘ下肢ニ運

今
新
建
屋
六
之
五
二
〇
三
二

動不遂ヲ起スニ至ル
該病ノ經過ハ甚々緩慢ニシテ治スルノ日ナク
竟ニ合併病ノ爲ニ死ノ轉帰ヲ取ルモノナリ
而シテ其病跡上解剖的ノ變化ニ至テハ吾人ノ
未々明分ヲ得サル可ナリ

第九 中毒論

中毒症

イニト

通常目撃スル者ハ鉛毒水銀毒砒

毒及ヒ酒毒

即チ酒客

等是レナリ

鉛中毒ニ急慢ノ二性アリ急性症ハ多量ノ含鉛

物ヲ用ルニ因テ發ス多クハ偽造ノ由ルニ幸ニ

ノ誤用スルヲ稀レナリ
其主症ハ劇性胃痛、惡心、嘔吐ニシテ多クハ便秘
ヲ起シ其他四肢ニ輕微ノ麻痺及ヒ脱力ヲ覺
ヘ脉屢々遲慢シ竟ニ吃逆、卒倒ヲ起シ或ハ痙
攣ヲ發スルニ至リ而シテ若シ鬼籍ニ登ラサル
者ハ延テ慢性中毒症ニ變遷ス
慢性鉛中毒ハ屢々發見スル所ノ症ニシテ即チ
小量ノ鉛ヲ絶ヘス体中ニ攝取スルニ因リ專
ニ鑛夫、畫工、活字師及ヒ陶器師等之レニ罹リ
稀レニハ鉛劑ヲ長服セル患者ニ於テ見ル

アリ而ノ其現症ヲ區別スルヲ左ノ如シ

〔其一〕鉛毒衰脱ハ身軀羸瘦シ顔面土色即帶黄色

若クハ微黄疸色ヲ呈シ齒齦ニ灰白色ノ線ヲ

帶ビ口内鑛味ヲ覺ヘ且ツ消食妨碍ヲ耦發ス

或ハ著キ局所症状ヲ見スノ身体大ニ羸瘦ス

ルヲアリ之レヲ鉛毒勞ト稱ス

〔其二〕鉛毒疝痛ハ先ツ食氣缺乏シ后チ臍部ニ

絞縮スルカ如キ發作性ノ劇痛ヲ起シ腹部甚

ク陷凹ノ頑固ノ便秘數週間ヲ来シ脉多クハ

遲慢トナル而シテ此疝痛ハ鉛中毒ノ初徴ニシ

原因ヲ絶ツトハ乍チ消散スルヲアレモ尚ホ

連綿ノ原因ヲ去ラサル者ハ反覆發作スル者

ナリ

〔其三〕脊髓神經系ノ症状ハ劇キ固底性ノ關節

痛ヲ發シ諸所ニ知覺鈍麻ヲ呈ス之レ多クハ初發ノ症ナリ

リ其他手足ノ伸筋麻痺削瘦ノ屢々感傳電氣

ノ反應ヲ失フニ至ル但シ此症麻痺ハ稀レニ

他筋ニ来ルヲアレモ上肢ノ長短外轉筋ハ曾

テ侵サレタルヲ見ス又々上肢ニ於テ偶々振

戦ヲ發スルヲアリ

〔其四〕腦症ハ多ク末期ニ顯ハル、者ニノ即チ
 癲癇状ノ發作及ヒ譫語ヲ發シ遂ニ昏睡ニ陷
 ル等之レアリ但シ該症ヲ發スルヤ先ツ頭痛
 眩暈及ヒ神思鬱憂ヲ患フルヲ多シトス
 鑑識急性症ニ於テハ其食物等ニ鉛ヲ含有セ
 シヤ否ヲ檢詳スルニ化學的ニアリ慢性ノ者ハ
 患者ノ職業ト以上述タル諸症ヲ以テ監査ス
 ヘク殊ニ衰脱ヲ現ハスニ至テハ最モ確明ナ
 リトス

眞

酒客譫妄

デリウム
トレンス (即チ)

酒毒ハ多年ノ酒類過用ニ因ス

此病ニシテ神經及ヒ精神ノ機能障碍ヲ来ス
 ニアリ其發スルヤ或ハ卒然ナルアリ或ハ劇
 シキ神勞或ハ熱性病肺炎、室核、私、大等ニ誘發
 ス而シテ此病ハ屢々有ル者ナレバ敢テ稀有病
 トナシ難シ

其主症ハ初メ諸多ノ譫語ヲ發シ遂ニ癲狂状
 トナリ其意識少シク存スト雖モ言語喃々ト
 ノ辨明シ難ク又夕上肢振戦ヲ發シ不眠騷擾
 ノ物ヲ破毀セント欲シ其他屢々熱發スル
 アリ但シ其譫語ハ都テ小物、小獸、虫類、貨財等

ノ事ヲ好言ス

監識ハ病ノ初期既ニ謬妄ヲ起シ振戦甚シク
ノ殊ニ患者ノ嘗テ暴飲家タリシヲ知ルハ
容易ニノ誤ルナシ

第十 全身病ノ症状

全身病ハ体中諸器悉ク疾患ニ罹ル者ニ其病
原ハ血中ニ根據スル者ナリト雖モ方今未タ之
レヲ確知スルト克ハス然レモ諸器既ニ病徴ヲ
標呈スルニ至テハ其由来ノ經歷ト相参考ノ監
識スルトアリ或ハ數多ノ時日ヲ要メ之レヲ歷

驗スルニ非レハ識別シ難キナリ

但シ局發病ニ在テハ獨リ一箇ノ器関ニ疾病
ヲ来スヲ以テ多クハ理學的診斷ニ因テ詳察
スヘキ變化ヲ見ハス者ナレバ一診ニノ能ク
監識スルナリ

全身病ヲ區別ノ二様トナス

其一 病原ニ從テ論スル者傳染及不傳染性病是
レナリ

其二 經過ニ從テ論スル者急慢二性ノ全身病是
レナリ

新編 醫學 卷之五 監識スルニ非レハ識別シ難キナリ

三

傳染及ヒ不傳染病甲ハ觸染毒及ヒ瘰癧毒泥沼
ニ由テ生シ乙ハ自然其体中ニ發生スルニ似タ
ル者

三

急性傳染病ハ痘瘡、猩紅疹、麻疹、類麻疹、水痘、間歇
熱、實布の里室私、田歸熱、腸室扶私、腦脊髓膜炎、腐
敗熱、膿毒病、虎列刺、赤痢、等ナレテ終リノ二病虎
痢、赤ハ必ス腸管ニ根據スルヲ以テ稱ノ局所病
トナスモ敢テ誣言ニアラズ
慢性傳染病ハ後天及ヒ先天即チ遺ノ微毒病是
レナリ

三

動物ヨリ感スル傳染病即チ獸類ニ因テハ即チ
トリヒネ蟲又タトトリヒト恐水病、ロツ脾脫疽是ナ

三

急性不傳染病ハ劇性寒冒、急性關節痺、麻肩私、急
性痛風ウエルホッフ、氏班點病是ナリ

三

慢性不傳染病ハ萎黃病、壞血病、腺病、白血病、ラヒチ
ス、密尿病、肉糠尿病、尿崩等是レナリ

三

第一急性傳染諸病
急性發疹病アノキチ、エキハ即チ痘瘡、麻疹、類麻疹、及ヒ
水痘ニシテ吾人其感受性ヲ具有セル者ナレハ一

一五二
○美
反

四ハ必ス之レニ罹ルヲ定規トス故ニ監識ハ其

經歷ヲ問診ノ大約ヲ定ムル者トス

痘瘡

痘瘡_レ真痘_及假痘_ヲリノ發疹タルヤ始メ皮表ニ赤色

ヲ見ハシ繼テ蓄疹様ニ突出シテ尖端小水胞

トナリ其含液白色ニ變シ遂ニ膿様トナリ

胞談

成熟セル者ハ殆ント又々重症ノ者ハ屢々

豌豆大ニ至ルヲアリト又々重症ノ者ハ屢々

胞内ニ出血ノ黒色トナル之レヲ名テ黒痘ト

云フ而シテ痘胞ハ二日乃至七日ニノ乾燥剥脫

シ痕痕ヲ遺メ癒ユル者ナレトモ病ノ輕重ニ由

テ大ヒニ差異_痕アリ

痘瘡未タ發疹ヲ表サハルニ前テ之レヲ監識

セント欲セハ其經歷ト次ニ記ス所ノ前驅症

トヲ照準スヘシ即チ前驅症ハ始メ一日乃至

四日間全身不快ヲ覺ヘ惡寒戰慄ノ劇熱ヲ發

シ昇騰ノ攝氏ノ四十頭痛或ハ薦骨部背部等

ニ疼痛アリテ大ヒニ煩悩ヲ覺ヘ偶々脾臟部

疼痛シ輕症ノ咽喉加苔兒ヲ發スルヲアリ而

尚第三日乃至五日ニ更ニ痘胞ヲ發生スル

片ハ則チ疑ヒナカル可シ

或ハ始メ未タ痘胞ヲ先ツ斑點状若クハ稍々

或ハ始メ未タ痘胞ヲ先ツ斑點状若クハ稍々

痘疹論 卷之五

廣大ニメ少シク皮表ニ隆起セル赤色ノ發疹
 フ表ハス_トアリ此發疹ハ麻疹或ハ猩紅疹ニ
 類似シ或ハ全身ニ及ホス_ト
 止マル_トアリ然レ_レ正六時乃至二十四時ノ
 后ナ消散ノ更ニ真痘ヲ發スル者ナリ又夕痘
 瘡ハ獨リ皮膚ノミナラス舌及ヒ咽喉等ノ粘
 膜ニ發スル者ニ_ノ該部ニ於ケル者却テ確著
 ナル_トアリ
 痘瘡ノ重症膿胞大ニ_ノ且ツ多數ナリナルヲ
 或ハ偶々數胞互ニ崩合スナルヲ
 真痘ト名ケ稍々輕症ナルヲ假痘ト名ク又々
 最モ輕症ナル_トハ偶々尖痘ト名クル_トアリ

眞

或ハ發疹后解熱ノ既ニ攝氏三十七度半若ク
 ハ尚ホ低下シ然ル后再ヒ發熱スル者ヲ指テ
 真痘ト名ケ爾他ノ者ヲ假痘ト名クルノ說アリ
 猩紅疹スカル
 ラナモ亦夕前兆期ヲ以テ起ル者ニシテ
 即チ一日乃至二日間全身不快ヲ覺ヘ屢々惡
 寒戰慄シ次テ劇熱及ヒ附屬症狀ヲ呈ス殊ニ
 小兒ニ於テハ吐逆及ヒ痙攣ヲ發シ其他加答
 兒性或ハ偽膜性咽喉炎ヲ發シ喉下ニ疼痛ヲ
 覺ル_トアリ其發疹タルヤ通常頭部ニ始マリ

新編
 卷之五
 〇五

速ニ全身ニ蔓延シ發疹后多クハ咽頭症ヲ増勢シ尿中ニ蛋白質及ヒ上皮圓柱ヲ混シ其他顔面及ヒ足部陰部等ニ水腫ヲ發スルヲアリ而シテ該疹ハ初メ少シク隆起セル赤色ノ小點ナレバ速カニ増大メ赤色班トナリ遂ニ全身ノ皮膚赤色腫起シ班中ニ於テ偶々小水泡若クハ點狀出血等ヲ呈シ終ニ微細ニ目撃シ難キ小皮片ノ剝脫ヲ以テ消散ス殊ニ上肢ニ於テハ屢々著表皮片ヲ剝脫スルヲアリ之レヲ膜狀脫皮ト云フ

痘

麻疹モ亦々前兆期アリ即チ一日乃至三日間不快ノ感ヲ覺ヘ惡寒稀ニ戰慄ヲ以テ發熱シ

其熱度中等ナレバ或ハ眼結膜鼻粘膜及ヒ氣管等ニ加苔兒ヲ發スル者ナリ而シテ該疹ハ初メ米粒大ノ隆起セル赤色班ニシテ偶々不齊ニ集合スルヲアリ其發スルヤ顔面ニ於テ口圍及ヒ眼圍ニ始マリ速ニ全身ニ但シ此際苔兒尚ホ蔓延ス依然タリ蔓延ス又々重症ニ在テハ疹中ニ小出血ヲ起シテ暗赤色トナルヲアリ而シテ其消散スルヤ糠狀皮

新編
卷之五
〇三
四

貢

片剥脱ヲ以テス之レヲ糠状脱皮ト云フ
 類麻疹^ルハ屢々前驅症ノ全ク缺如スル^トアリ
 若シ發見スルモ唯不快ノ感アル^ノミ而メ該
 疹ハ麻疹ニ比スレバ發生スル^ト速カニ隆
 起セサル米粒大ノ赤色ヲ呈シ偶々少シク隆起スル^トアリ
 稀レニ集合スル^トアリ其他痒感ヲ覺フルヲ
 常トス
 其發疹スルヤ顔面ニ初マリ次テ全身ニ及ブ
 卜雖^レ消散スル^ト甚^ク速カナル者ニメ已ニ
 一日乃至二日^ノ后ハ其痕跡ヲモ見サルニ至ル

竟

但シ氣管枝加苔兒等ハ全ク存セス又多クハ
 熱發スル^トナク且ツ皮片ノ剥脱モ亦甚^ク微
 少ニ^テ殆ントナキガ如シ
 水痘^ノハ痘瘡ニ似名スト雖^レ之レ全ク異性特
 別ナル者ニシテ前兆期ハ甚^ク不明ナルヲ以
 テ殆ント監視シ難ク唯發疹ヲ見テ始テ之レ
 ヲ知ル^ノミ前兆期全ク潜伏スル^ト多シ其發疹タルヤ水様透
 明ノ小水泡ニ^テ頭部ヨリ始マリ全身ニ蔓延
 スト雖^レ其胞坐ニ少シク充血スル^ノミニ
 全ク腫起セサル^トアリ若シ腫起スルモ甚^ク輕微ナリ故ニ

新撰
 卷之五十二
 〇五
 臨川類聚

多クハ醸膿セスノ乾燥スルニ至ル而メ熱ハ
 發疹スルノ際ニ當テ昇騰スレハ速カニ低下
 ノ平温トナル而メ該疹ハ漸次ニ發生スル者
 ニメ復タ漸ヲ以テ消散シ治後ニ於テハ全ク
 無痕ナルカ或ハ稀レニ微陷凹ヲ遺スアアリ
 ト雖亦タ速カニ消滅スル者ナリ

章

間歇熱イニテスルハ專ラ瘴癘毒ニ起因スル者ニメ
シテスモ爰ニ注意スルヤ尤其主症タルヤ定規ニ從テ熱
 勢ノ發作反覆スルニアリ乃チ日々ニ發スル
 之レヲ日發間歇熱ト稱シ或ハ隔日ニ發スル

ヲ隔日間歇熱ト稱シ或ハ四日毎トニ發スル
 二日ノ間之レヲ四日間歇熱ト稱ス都テ其發
 作中ヲ分テ三期トナス

第一惡寒期ハ甚タ寒慄シ皮膚厥冷ノ淡白色
 トナリ脈搏小ニメ且ツ緊ナレハ内部ノ温度
 ハ却テ昇騰ス該期大約三時間ヲ常トス
 第二熱發期ハ皮膚乾燥熱發ノ灼クカ如ク脈
 搏實ニメ數ナリ該期ハ二時ヨリ八時間ニ至
 ル

第三發汗期ハ發汗淋漓ノ精神快活トナリ体

新撰証
 卷之五十二
 〇三
 〇三

温多クハ二三時ニノ平度ニ復ス該期ハ三時
 ヨリ五時ニ至ル故ニ發作全期ハ八時ヨリ十
 六時ニ亘レリ其他該病ハ必ス脾臟ノ腫大ヲ
 起ス者ナレバ理學的ヲ以テ診識スヘシ若シ
 間歇時ニ於テ監識セント欲スルキハ來患ノ
 經歷ト發作及ヒ脾臟ノ形状等ニ注意シ發作
 ノ際ハ其症状ト劇熱攝氏四十一度乃至四十一度半乃ノ發顯
 及ヒ皮膚ノ状態等ヲ参考スヘシ
 實布の里室斯ハ屢々見ル所ノ疾病ニノ多クハ
 流行性トナリ殊ニ小兒ノ所患ニアリ其發ス

童

ルヤ或ハ局所ニ止マリ或ハ全身ニ轉遷スル
 一アリト雖凡初メハ扁桃腺デキフテリキマ及ヒ軟
 口蓋ノ嫩衝ニ由リ近傍ノ水脉腺腫脹メ屢々
 劇熱ヲ發シ稀レニハ咽喉若クハ鼻粘膜ヨリ
 始マル一アリ其主症ハ小寫狀ニ隆起セル汚
 白色ノ苔ヲ生シ遂ニ繁殖メ咽喉、鼻腔及ヒ氣
 管ニ蔓延スルニアリ而シテ之ノ苔ハ二三日ヲ
 經テ剝離シ粘膜或ハ實質ヲ損亡メ壞疽ニ陥
 リ平滑若クハ稍々異狀ノ癍痕ヲ以テ治癒ス
 ル一アリ然レ壞疽ハ多數ノ菌徴其部ニ輻湊

言語抄 卷之五三 四

スルニ因ル者ニノ其菌微或ハ深部ノ血管ヲ
 經テ全身ニ運派スルヲアリ或ハ腎臟ニ固着
 ノ屢々蛋白尿ヲ見ハスヲアリ
 又夕局所症經過ノ后一週乃至五週ニ至レハ
 偶々軟口蓋及ヒ咽頭ニ麻痺ヲ起メ嚥下困難
 トナリ爲ニ食物ヲ鼻腔内ニ逆出スルヲアリ
 或ハ眼筋麻痺ニ由リ重視及ヒ適應機不遂ヲ
 來スアリ或ハ稀レニ他筋若クハ脊髓麻痺ヲ
 來タシ兩側不遂及ヒ膀胱麻痺ヲ發スルヲア
 リ

三

其他猩紅熱ニ於ケル咽喉炎ハ屢々實布の里
 室斯ニ類似スルヲアリ之レ恐ク同一種ナラ
 ン乎又々結膜直腸赤痢ニ於ケル腔痘瘡チフス瘡或ハ
 諸多ノ創傷面ニ於テ屢々實布の里室斯炎ニ
 類似セル壞疽性ノ瘡衝ヲ發スルヲ以テ亦タ
 同名ヲ附興スルヲアリ
 田歸熱チフスハ甚キ傳染病ニノ魯細亞及ヒポー
 レン國ニ於テハ地方病トナリテ流行スレバ
 獨逸國ニ於テハ天行性トナリテ見ハルノ
 ミ而メ其經過ニ三期ノ區別アリ第一期ハ七

新獲
 言語抄
 卷之五三
 四

日以内ニ顯ル、症ニメ始メ全身不快ヲ覺ヘ
 寒慄ノ劇熱ヲ發シ攝氏四十度乃至朝時ト雖
 且唯僅微ノ緩解ヲ表スルノミ已ニ第五日ヨ
 リ七日ニ至レバ突然解熱シ大ヒニ發汗メ更
 ニ平温以下攝氏三十五度トナル其他該期中ニ腦症
 及ヒ脾臟腫大或ハ下痢或ハ氣管枝加答兒ヲ
 發シ或ハ尿中蛋白質ヲ混シ或ハ口唇胞叢疹
 ヲ發スルヲアリ第二期ハ即チ無熱時ニ多
 クハ四日乃至十日稀レニハ一日若クハ三日
 間ナルトアリ其發症ハ獨リ脾臟腫大ヲ存ス

ルノミ他ノ病ニ屢々健全ノ如キトアリト
 雖且該期ノ半ハニノ暫クノ間タ半度乃至二
 度ノ体温亢進ヲ來スコトアリ第三期ハ即チ
 再發期ニシテ發症第一期ニ類似スレ且其持續
 ハ三日乃至四日間ニシテ熱度ハ通常高攝氏四
 十一度四分ヨリ四
 十二度二分ニ至ルキ者是レナリ
 但シ該病ハ第一ノ經過ヲ終ルノ后チ復タ反
 覆ノ第三ノ經過ヲ將來スルトアリ
 監識ハ間歇時ノ始メニ於テ確定シ難シト雖
 且流行ノ関涉及ヒ病歴殊ニ熱度ノ經過ト脾

今折捷徑
 卷之五
 〇三五
 臨氏

臍腫大等ヲ参考セハ之レヲ略知スヘク加之
 患者ノ血液中ニ回歸熱螺織ヲ發見スル片ハ
 最モ確實ナリ之ノ螺織ハ即チ螺旋狀ニ回捲
 セル細織樣物ニ熱ノ初發后已ニ二十四時
 ニ至レバ必ス血中ニ見ルヲ得ル者ナリ
 腸室扶斯チラスアブ トミナリスハ三乃至六週間ニ經過スル熱
 性病ニシテ或ハ流行シ或ハ特發スルヲアリ其
 主症ハ即チ熱ニシテ其熱タルヤ第一週ヨリ弛
 張性ヲ以テ漸ク昇騰シ遂ニ四十度乃至四十
 一度ニ至レバ一週及ヒ三週ノ間依然トシテ輕

微ノ弛張ヲ呈スルノミ然レモ次テ解熱スル
 ニ亦々漸ク弛張性ヲ以テシ已ニ八日乃至
 十四日ニシテ遂ニ平温ニ至ル是レナリ而シテ
 一週ハ便秘若クハ下利シ第二週ノ始メニ於
 テハ腦症ヲ表ハシ多クハ頭痛眩暈メ且安眠
 ヲ得ス第三週乃至第三週ニ於テハ精神朦朧
 トモ偶々譫語ヲ發シ或ハ氣管枝加苔兒或ハ
 肺炎殊ニ下葉之等ヲ續發シ又々蕃薇斑ヲ發
 ス少シク隆起セル其斑ハ腹部及ヒ胸部ニ
 在テ其數甚タ多カラス第二週乃至第四週ニ

新撰 卷之三
 〇三六
 醫學博士 藤田鳴鶴 著
 東京 醫學書院 發行

於テハ脉搏重複性ヲ表ハシ脾臟腫大シ此レ
 ヲ壓スレバ疼痛ヲ訴ヘ又々腹痛ナク下痢
 スルヲ常トス然レモ盲腸部ヲ壓スレバ疼痛
 アリ是レ盲腸部室扶私性腸潰瘍ノ所在ナレバ
 ナリ其他古乾燥シ偶々腸穿孔若クハ腸出血
 ヲ發スルヲアリ

監識第一週以内ハ確定シ難シト雖モ爾后ニ
 至レバ其病歴時期、熱性、腦症及ト現症脾臟、盲腸部
蓋被班、下痢等ヲ以テ之レヲ判別スヘシ又々現症ヲ
 以テ其時期ヲ知ルヲアリ又々第三週若クハ

言

第四週ニ至テハ熱勢及ヒ腦症再ヒ増盛シ更
 ニ蕃蔽班ヲ發スルハ全ク該病ノ再發タル
 ヲ徵スヘシ

發疹室扶斯チフスエキハ大ブリタニヤ英ポーレンン及
 ヒワーバルシユレジヤニ於テハ地方病ナルモ獨
 逸ニ於テハ多ク天行性トナリ且ツ大害ヲ來
 ス稀レナリト雖モ其性最モ傳染ニ易キ者
 ニシテ其經過ハ二週乃至三週ニアリ而シテ初メ
 多クハ三日乃至十日ノ潜伏期ヲ有スレモ甚
 タ不定ニシテ唯加峇兒症ノ發見アルノミ

新捷

卷之五

〇三七

四

其症狀ハ熱及ヒ腦症加答兒症發疹脾腫大之
 レナリ熱ハ戰慄若クハ數回ノ惡寒ヲ以テ起
 リ兩三日ニ著ク昇騰シ稀レニ攝氏四十度
 半ニ止レテ多クハ四十一度乃至四十一度半
 ニ達シ暫留スルヲ三四日即チ第一週ノ終リ
 ニノ遂ニ緩解シ後チ第二週ニ至テ再ヒ發熱
 シ其周末ニ至レハ卒然低下ノ平温トナル然
 レモ重症ニ在テハ第一週後ノ解熱ナク遂ニ
 第三週ニ至テ始メテ眞ノ解熱ヲ來ス者ニメ
 其經過間猶ホ往舊劇熱ヲ持續シ或ハ却テ四

十二度ニ達スルヲアリ
 腦症ハ頭痛眩暈シ動モスレバ人事不省及ヒ
 謔語ヲ起ス是ナリ其他氣管枝加答兒ハ必發
 ノ症ニシテ且ツ困難ナル咳嗽ヲ發シ又夕結膜
 及ヒ鼻加答兒等ヲ合併シ第二週ニ至タレバ
 肺炎ヲ將來スルヲアリ
 發疹ハ麻疹様ニシテ第一週ノ半バニ至レ
 バ全身ニ見ハレ熱勢减退スルニ從テ消散ス
 ル者ナレバ多クハ第二週ニ至リ暗青色ヲ呈
 ス之レ疹中ノ出血點狀ニ因ル者ナリ

新捷徑
 卷之五
 三六
 諸病機

脾臟腫大ハ第一週ノ終ニ於テ最モ著ク而シテ
 恢復期ニ至ル迄テ依然トシ減ゼズ
 監識病ノ初期以前發疹ニ於テハ流行ノ関涉ト熱
 度及ヒ氣管枝或ハ結膜等ノ加谷兒ヲ以テ略
 知スベシト雖モ既ニ確症トスヘキ發疹ト脾
 臟腫大トヲ見ルハ始テ瞭然ナリトス

虎

虎列刺ハ二三時或ハ三四日間ニ經過セル劇勢
 ノ傳染病ニシテ印度耕米ノ地ニ於テハ地方病
 ナルモ歐洲ニ於テハ天行性ニ見ハル其發ス
 ルヤ或ハ急卒ナルアリ或ハ下痢ニ由テ来ル

アリ

其主症輕症ニ在テハ良々頑固ナル過劇ノ水
 瀉アリト雖モ腹痛ナク唯煩渴飲引メ止マサ
 ルノミ重症ニ在テハ多量ノ下痢ヲ起シ二三
 行ノ後ト更ニ無色無臭ノ稀薄液トナリ白色
 ノ細片腸粘膜表皮クヲ浮游ス之レヲ米泔汁
 便ト稱ス吐物ハ始メ胃中ノ食物ナルモ速ニ
 米泔汁様ニ變ス尿ハ其量減少スルカ若クハ
 全ク閉止シ其他煩渴飲引皮膚乾燥喉冷四肢
 甚ニ於テノ殆ニト死体ノ如ク脈搏微弱トナリ

殊ニ未稍ノ動脈ニ於テハ全ク搏動ヲ失フカ
 如シ又夕心下苦悶シ全身大ヒニ衰脱シ呼吸
 促迫聲音嘶嘎ス之レハ虎列刺聲トヲ稱ス列又夕諸筋ノ痙
 攣性疼痛ヲ發シ特ニ腓脛筋ニ於テ甚シ監識
 ハ該病ノ流行ニ注目スレバ他病ト誤ルトナ
 シ

眞

歐洲虎列刺

コレラノ(霍乱)

ハ眞虎列刺ニ類似スト雖

其病勢殆ント緩ナリ是レ急性胃腸加答兒ノ
 一種劇症ナル者ニマ多ク暑中ニ來發シ又夕
 稀レニ中毒ニ由來スルトアリ

眞

虎列刺狀室扶斯

コレラチ

ハ屢々虎列刺ニ續發スル

者ニノ即チ全身ノ熱性反應ヲ表スル是レナ
 リ

其時期ニ定限ナシト雖ヒ肺炎クロツプ性腎臟

炎尿中蛋白質及及ヒ腸粘膜炎實布の里性炎所

ニ環疽ヲ生シ惡ノ如キ諸炎症性病ヲ誘發ス

監識ハ病歴及ヒ以上掲ル局所病ヲ以テ察知

スルトヲ得ハ敢テ難シトセス

赤痢コレラチハ時期不定ノ天行病ナレヒ偶々地方病

ナルトアリ是レ即チ傳染性ノ大腸加答兒ニノ

診新捷徑

卷之五

單

附錄

病勢ニ應ノ患部粘膜ニ大小ノ壞疽即十實布
炎ヲ生スル者ナリ的里室斯

其主症ハ先ツ不定規ノ熱ヲ呈シ兼テ下痢ヲ
起ス其下痢初メ著キ障害ナキカ如シト雖死
通常ノ下遂ニ變ノ粘液或ハ潰爛セル粘膜片
及ヒ血液等ヲ混シ著シトス數回上圍スル
モ毎通些少ニノ且ツ惡臭アリ慢性ノ者ハ其
他腹痛アリテ増減アリ殊ニ便意ヲ催起ス
ル毎トニ必ス増盛スルヲ以テ患者ノ苦惱ト
ス而シテ裏急後重ヲ起シ便意益頻促ノ遂ニ日

々三十行ノ多キニ至ルニ毎回腹痛ニ殊
ニ通利ノ際ニ

慢性赤痢ハ熱發スルトナク腹痛及ヒ裏急后
重アリト雖凡亦々甚シカラス或ハ下痢或ハ
便秘交々往來シ而シテ便中ニハ尿塊膿汁及ヒ
多量ノ粘液ヲ混ス或ハ腸粘膜即チ患部壞疽
ヨリ出血ノ之レヲ便中ニ混スル者ナリ
監識ハ明亮ニ誤診ノ憂ハ少ナシ
其他赤痢ニ類セル加苔兒性又持痢病アリ之
レ傳染性ナク其經過モ亦緩ニノ且ツ便中ニ

新書
醫學
卷之三
〇五
痢疾

腐爛セル粘膜片等ヲ混スルヲナキヲ以テ區別スベシ

真

流行性腦脊髓膜炎

セブレロスピナ
ヘルメニギナス

ハ即チ腦脊髓膜ノ

炎ニシテ時々流行性ニ發スルモノナリ而シテ眞ノ傳染性ナル乎未詳知スルモ、ナリ而シテ眞ノ時期甚タ不同アリト雖、其經過ヲ區別シテ二期トス一ハ刺衝期一ハ抑壓期是ナリ或ハ其經界判然ナラサルヲアリ而シテ此症ニ罹ル者ハ多ク壯年ニシテ強健ノ人ニアリ其主症ハ即チ劇甚ノ熱症ナレトモ定規ヲ履マ

ス精神大ニ亢奮セラレテ譫語ヲ發シ遂ニ神機衰脱ノ昏睡ニ陥リ又夕嘔吐ヲ發シ瞳孔始メ著ク縮小シ後チ散大ス

其他頭痛項痛及ヒ背痛ヲ覺ヘ殊ニ背痛甚タ強劇ニシテ項筋或ハ咀嚼筋ハ緊張頑縮シ他ノ諸筋モ亦々緊張メ且ツ痙攣ヲ起シ全脊柱強剛シ全身知覺過敏ニシテ屢々下痢スルヲアリ其他胞叢疹若クハ薔薇斑若クハ點狀出血等數種ノ發疹ヲ生ス

鑑識ハ病ノ流行ニ注意シ患者ハ頭痛背痛項

流行性腦脊髓膜炎
〇里
頭痛背痛項

筋緊縮不定ノ劇熱腦ノ諸症ヲ呈シ更ニ著目
 スヘキ局所病ヲ存セサルハ則チ該病ナル
 ヲ測知スヘシ
 腐敗熱^{セプテ}ハ腐敗性ノ分解物質ヲ血中^{其膿膜}
 ニ吸収スルニ起因セル血液ノ中毒症ニシテ其分
 解物タルヤ大ナル組織ノ損傷^{挫傷}或ハ各種
 ノ膿膿等ヨリス故ニ諸般ノ創傷熱^{凍傷}ヲ腐敗
 熱ノ輕症トスルモ佳ナリ
 其主症ハ寒慄^{ナク}ノ發熱^シ其熱偶々輕微ナ
 ルトアレバ多クハ昇騰ノ劇性トナリ猶ホ不

膿毒病^{トヒエ}ハ膿汁ノ一片^{殊ニ膿中}ヲ血中ニ吸収
 存スル片ハ互ク測知ノ可ナリ
 脾臟腫大ノ下痢及一二ノ局所病^{上ニ記載ヲ}
 監識ハ上ニ掲クル患部ニ兼テ熱發寒慄^{ナシ}
 至ル
 等アル片ハ膿膿ノ癒合面ヲ再ヒ緩離スルニ
 胸膜^{心囊}關節^膜ニ膿性^炎衝ヲ發シ若シ新骨折
 シ過度ノ下痢ヲ發スルト屢々アリ其他漿膜
 衰弱スルト甚シク偶々譫語ヲ發シ脾臟腫大
 整ノ緩解ヲ表ハシ或ハ人事不省トナリ且ツ

膿毒病^{トヒエ}ハ膿汁ノ一片^{殊ニ膿中}ヲ血中ニ吸収
 存スル片ハ互ク測知ノ可ナリ
 脾臟腫大ノ下痢及一二ノ局所病^{上ニ記載ヲ}
 監識ハ上ニ掲クル患部ニ兼テ熱發寒慄^{ナシ}
 至ル
 等アル片ハ膿膿ノ癒合面ヲ再ヒ緩離スルニ
 胸膜^{心囊}關節^膜ニ膿性^炎衝ヲ發シ若シ新骨折
 シ過度ノ下痢ヲ發スルト屢々アリ其他漿膜
 衰弱スルト甚シク偶々譫語ヲ發シ脾臟腫大
 整ノ緩解ヲ表ハシ或ハ人事不省トナリ且ツ

診辨提 卷之五十二 同 氏 藤 本

ニ他部ノ毛細管^{肺、肝及}ニ阻塞シテ其部ニ釀膿ヲ誘起ス之レヲ移轉^{腦等}歟衝ト云フ
其主症ハ甚キ弛張性ノ劇熱ニメ其発スルヤ不整ニ反覆スル所ノ寒慄ヲ以テシ全身大ヒニ衰弱シ人事不省精神恍惚トナリ皮膚ハ黄疽色^{濃淡ノ數ヲ呈シ偶下痢スル}アリ尿量ハ減少ノ且ツ蛋白質ヲ混シ脾臟腫大ヲ起ス又々肺ニ移轉症アレハ氣管枝加苔兒ヲ發シ肝ニ膿腫ヲ生スレハ疼痛ヲ覺フ其他漿膜腔^{胸膜、心囊、關節、膜及}ハ膿性炎ノ爲ニ滲出物ヲ渚溜

スルヲアリ又々發病ノ際屢々患部近圍ノ嗽衝増勢スルヲアリ
監識ハ釀膿部ニ現存ニ兼テ寒慄ヲ以テ發熱ニ尚ホ黄疽色及ヒ脾臟腫大アルヲ以テ察スヘシ而シテ移轉性炎ハ屢々發見シ難キヲアリ又々腐敗熱ト膿毒病ト併發スルヲ稀レナラス殊ニ^分熱ニ於テ屢々見ル所ニ其原由ハ^{或ハ}胎兒發育過度ニ由ル損傷等^者是レナリ

第二慢性傳染病

新編 醫學 卷之五十二 同 氏 藤 本

徵毒症リシヒヲ先天後天ノ二性ニ別ツト雖其
 病原ハ全ク同一ニ、唯症狀一差異アルノミ其
 由縁ハ既ニ後天徵毒ヲ感受セル父母ニ、先天
 徵毒ノ小兒ヲ産シ先天徵毒ノ患者ヨリ他人ニ
 後天徵毒ヲ傳與スルヲ以テ亮察スベシ
 後天性徵毒シヒリスハ皮膚及ヒ粘膜ノ創傷例之微
アケイミタ脱面ヨリ吸収スル者ニ、其創傷ハ變狀ヲ
 呈サ、ルアリ或ハ單純ノ潰瘍トナリ次テ速
 カニ治スルアリ或ハ延ヒテ三四週ノ后チ基
 底ニ硬結ヲ殘シ癩痕ヲ以テ治スルアリ或ハ

三週乃至五週ノ后チ始テ硬結ヲ呈ハシ遂ニ
 崩潰ノ潰瘍トナリ徐々ニ癒ル一アリ
 以上ノ局所症ヲ發メ后チ四週乃至六週ニ至
 レバ更ニ全身症ヲ顯ハシ在昔持續スルアリ
 或ハ早晚消褪シ數日ヲ經テ再ヒ發顯スル
 アリ其續發症第二期ニ屬スル者ハ左ノ如シ
 水脉腺腫脹即チ無ハ先ツ患部即チ傳近
痛便毒傍ニ見ハレ遂ニ全身各所即チ傳波
部頰部下頰部及シ本病現存ノ間ハ依然トノ消散スルヲ十

微毒性虹彩炎之レ專門家ニアラサレハ區別シ難シ
 以上述ル症候ノ發見ハ傳染后稍早キ者ニシ
 其二三ノ症ハ尚持續ノ該病ノ末期ニ及ブ者
 ナリ但シ是等ノ諸症或ハ特發シ或ハ併發ス
 ルトアリト雖氏統テ水脉腺腫脹ニ併發スル
 カ或ハ全身水脉腺腫脹ニ兼テ陰部ニ硬結性
 癬痕ヲ見ルハ則チ微毒症ト監定ノ可ナリ
 又タ以上ノ諸症既ニ過半ヲ經過シ殆ント該
 病ノ末期ニ至ルハ深ク營養障碍ヲ来ス
三期ノ左ノ如シ

微毒性結節又微毒性狼瘡ハ皮膚ニ散生シ暗赤色ニ
 ノ硬固ナル者是レナリ其發スルハ前額部ニ
 最モ多クシ或ハ崩潰シ或ハ否ラスノ消散ス
 レルニテ治後ニ癬痕ヲ遺ス
 膿胞疹ニ大小膿胞疹ノ二様アリ多ク頭皮
 ニ發スル者ニシテ或ハ潰瘍ニ變シ周圍及ヒ深
 部ヲ侵襲ノ遂ニ治シ難キトアリ
 侵蝕性粘膜炎潰瘍ハ深部ニ侵入スル者ニシテ
 ルニ癬痕ヲ以テス故ニ咽頭及喉頭ノ狭窄或
 ハ聲帶或ハ喉頭軟骨ノ缺損等ヲ貽フ虞アリ

新編

卷之五

五

四

骨膜炎ハ往時持續スル者ニシテ頭蓋ノ内外面
 脛骨胸骨鎖骨ニ發シ屢々夜間ニ劇性ノ骨痛ヲ
 來ス而シテ該炎ハ全ク消散スルコトアリ或ハ區
 域セル軟性腫護若クハ硬性腫骨ノ瘤ヲ誘發
 スルアリ或ハ骨ノ肥厚ヲナスアリ或ハ患骨
 ノ吸収ヲ營ムアリ其チ質分吸収セ或ハ骨潰
 瘍ニ陥ルアリ殊ニ顔面骨ニ在テハ著大ノ損
 害ヲ將來ニ鼻梁陷没スルモノナリ
 結締織中ニ滲出物ヲ生スルハ寧ろ微毒性腫
 膜及ヒ脊髄膜近接セル神經痛及ヒ麻痺ヲ來ス

等ニ於テス
 腦脊髄ノ結締織ニ新生物ヲ生ジ爲ニ微毒性
 腫瘍微毒性截癱及ヒ腦神經ノ麻痺ヲ來シ又
 タ腦動脈ノ剛膜即チ外膜微毒性肥厚ヲ起シ前進
 性麻痺及ヒ言語不遂ヲ來スコトアリ
 肝臟モ亦々局処ノ新生物ヲ發スルコトアレバ
 生体ニ在テ之レヲ知ルコト難シ
 又々屢々續發性全身營養障碍ヲ起シ身體羸瘦
 シ毛髮脫落スルコトアリ
 微毒性ノ膿潰存時持續スル中ハ脾臟及ヒ肝

新書
 醫學
 卷之五十二

醫學
 卷之五十二

醫學

醫學
 卷之五十二

諸病捷徑 卷之五十二

者ハ殆ント豌豆大ニ至ル然リ而ノ遂ニ破潰
シ後チ湿润セル剥脫面ヲ貽ス其發生部ハ手
掌足蹠趾尖指頭及ヒ軀幹ナリ第三ニ於テハ
頑固ノ鼻加答兒ヲ起メ膿様粘稠ノ液ヲ泄シ
又々全身ニ蕃薇斑及ヒ片癬ヲ發シ殊ニ肛門
ノ近圍ニ於テ甚タシ又々肛圍ニコシゲロ
ムヲ生シ或ハ口角及ヒ肛門ニ裂瘡ヲ生ス
其他該病ノ全癒スルニ數年ヲ經歷スル片ハ
粘膜及ヒ顔面骨ノ損傷等ヲ將來スルモノナ
リ

第三獸類ヨリ感スル傳染諸病

トリヒネ病ハ多ク流行性ニメ豚肉猫肉鼠肉ノ如キモ然リ
等ニ含有セルトリヒネ蟲ヲ食スルニ由リ之
レヲ發ス其由縁ハ該蟲ノ腸内ニ入ル片ハ繁
殖巨多ノ卵ヲ生メ數多ノトリヒネトナリ
遂ニ腸ヲ穿テ全身ノ筋肉中ニ轉移メ囊胞ヲ
生ジ其内部ニ蟄伏メ各部ノ筋炎ヲ發ス及ヒ
稀レニ横隔膜ニ於テハ是レ即チ無數ノ異物
トリヒネ既ニ筋肉中ニ侵入シテ刺戟スルニ
因ル

新編 醫學 卷之五十二 五十二 醫學 綱目 綱目

其症狀ニ輕重ノ二様アリ甲ハ肉食後數時若クハ二三日ニノ吐瀉ヲ起シテ其毒物ヲ排泄ス故ニ身体微ク不快ヲ覺ルノミニテ他ノ苦患ナシ乙ニ在テハ不整ノ弛張熱ヲ發シ偶四十度乃至四十一度ニ昇騰シ筋及ヒ關節ニ於テ初メ痲痺瘧斯様ノ疼痛ヲ發シ漸ク増盛メ按壓若クハ運動ノ際益甚キニ至ル又々各部ノ諸筋腫起メ硬固或ハ強剛トナリ筋炎ヲ起セル部ノ周圍ニ水腫ヲ起シ殊ニ眼瞼ニ於テ著シ呼吸筋強ク侵サル、并ハ呼吸促迫シ

實

時々窒息状ノ發作ヲ呈シ且ツ低所鬱血性ノ肺炎ヲ起シ全身大ニ發汗スルニ至ル
 監識ハ病ノ輕重ヲ問ハス初期ニ當テ腸ノ含有物ヲ取リ顯微鏡下ニ照檢セハ偶腸トリヒ不及ト其弗若クハ筋トリヒネヲ現存シ又又輕症ニ於テハ疑キトアレヒ重症ニ至テハ患筋ノ一小片ヲ取リ之レヲ顯微鏡下ニ照査スレハ容易ニ審定スベシ
 恐水病^{ホリサ}ハ即チ該病ニ罹レル獸ノ唾液ヲ創傷面^{咬傷面}ヲヨリ吸收スルニ因リ其受毒後凡ソ

三ヶ月以内ニ發顯シ遂ニ一日乃至三日ノ間ニ覺ル者是レナリ
 其發スルヤ初メ心身不安ヲ覺ヘ頻々嘆息ノ状ヲ呈ハシ是ノ症確遂ニ左ノ症候ヲ来ス乃チ四肢疼痛殊ニ損傷セル神經ノ通路ニ當テ甚シハタルニ至ル是レ咽頭及ヒ嚥下諸筋ノ痙攣ヲ嚥下ヲ管為ス起スヲ以テナリ但シ飲料ヲ嚥下最モ困難トナシ遂ニ飲水及ヒ食器ヲ見ルカ或ハ之ヲ想像スルモ直ニ苦惱ヲ發スルニ至リ

五官ノ刺衝機ハ漸々増進ノ甚々穎敏トナリ抵觸振動風衝光線物四肢伸展シ呼吸困難ノ時々痙攣ヲ發シ其他大ヒニ恐愕ノ状ヲ見ハ此症ハ知覺機ノ益々充進スルヲ以テ初メハ強キ刺衝ニ逢テ恐愕ヲ起セテ遂ニ刺戟ナク至ル然レモ末期ニ至レバ麻痺症ニ陥リ痙攣及ヒ知覺過敏ノ症共ニ減退シ偶皮膚局所ノ知覺鈍麻ヲ来スアリ或ハ流涎ノ其津唾ヲ近傍ニ放散シ或ハ精神亢奮ノ譫語及ヒ甚キ不眠症ヲ来シ或ハ時々忿怒ヲ發シ遂ニ人事不省トナリ沉睡ニ陥ルアリ或ハ早ク

下肢ニ麻痺ヲ生シ屢々尿意頻促ナルヲアリ
熱ハ良々昇騰スレモ定規ナシ
其他諸書ニ因レバ舌下ニ水泡ヲ発スルト記
載セルモ實地上ニ現存セサルヲ屢々アリ以
上ノ症ニ因レバ鑑識ハ容易ナル者ニシテ他ニ
誤ル可キナシ

言主

脾脫疽 ブスツラ マリグナハ該病ニ罹レル獸ノ血液膿汁若ク
ハ唾液等ヲ創面ヨリ吸収スルカ或ハ其獸肉
ヲ食スルカ或ハ之レヲ螫刺セル蟲類或ハ其
毛皮等一抵觸スルヲ以テ感受スル者是レナリ

其發スルヤ先ツ局所ニ炎腫ヲ呈シ暗黒色ト
ナリ遂ニ變ノ壞疽狀トナリ其炎周圍ニ蔓延ス
然リ而シテ他部ノ皮膚モ亦漸ク類似ノ炎ヲ起
或ハ膿性關節炎膿性肺炎若クハ胸膜炎等ヲ
繼發シ毎回寒慄ノ劇熱ヲ起シ終ニ衰脫ノ嗜
眠及ヒ譫語ヲ發スルニ至ル其治癒多クハ預
定シ難シト雖モ病未タ局底スルニ際シ早ク
劇烈ノ療方ヲ施シテ攻治スルヲアリ然レモ
遂ニ不治ノ症ニ陥ル者ハ四日乃至十日ニシ
斃ル又タ稀レニ該毒ヲ胃中ニ吸収シ爲ニ食

新編 醫學 卷之五 五三 調劑 反

機缺乏ノ大ヒニ疲労ヲ來シ頭痛眩暈或ハ吐
逆シ或ハ血刺及ヒ痲痛ヲ發シ生力沉衰ノ遂
ニ死ニ陥ルヲアリ

第四 急性不傳染諸病

劇性感胃

インフルエツア 流行性

ハ流行性ニシテ其主症々

ルヤ氣道

鼻腔、喉頭、氣管、支氣管、及ヒ腸胃ノ加

答兒ヲ相併發メ稍高度ノ弛張熱ヲ呈シ一週

乃至三週ノ間ニ經過スル者ナリ

鑑識ハ流行性及ヒ其發顯セル局所症狀ヲ以

テ測知スベシ然レニ初發ニ於テハ屢急性發

第五

疹ノ前驅症ト疑フ可キヲアリ

急性關節痲痺斯

ロイマチス、ムス、アルチ

ハ稍々高度

ノ弛張熱ヲ發シ多クハ大關節ニハ痲衝劇痛

ヲ起シ殊ニ運動關節内ニ滲出物ヲ生シテ周

圍ニ焮腫シ全身大ニ發汗ス而シテ屢々心囊炎若

クハ心内膜炎ヲ繼發シ終ニ瓣膜不全症ヲ貽

スヲアリ又々偶々胸膜炎ヲ來タシ稀レニハ

腦膜及ヒ脊髓膜炎ヲ併發スルヲアリ

慢性痲痺斯ニ二様アリ一ハ一箇ノ關節ニ

急性症局發シテ特別ノ解剖的變状ナク荏苒

持續スル者ヲ云ヒ一ハ急性ノ輕症ニシテ發作
數回反覆スル者ヲ云フ

急

急性痛風アキートハ多ク趾節疼痛ヲ以テ起ル者

ニシテ其誘因タルヤ經久ノ美食多量ノ蛋白質ヲ含ム者ヲ云フ

ニ由リ血中過量ノ尿酸ヲ含有スルニアリ

之レヲ尿酸血質ト云フ

鑑識ハ其發作ト經歷及ヒ現存セル局所症等

ヲ參考スルニアリ而シテ其發作タルヤ大趾ノ

跖骨ト第一趾骨ノ間ニ當テ卒然劇烈ノ穿痛

ヲ發シ他ノ關節ニ來ルナリ周圍ノ皮膚赤色腫起ノ

灼熱ヲ覺フ但シ之ノ疼痛ハ殆ト雖ヲ以テ

穿ツカ知ク夜間ニ發作シテ晝間ハ間歇シ數

夜頻發スルニ至ル其間歇時ハ不整ニシテ數回

再發ノ後ト遂ニ大趾根ニ厚結ヲ殘スルアリ

又タ稀レニハ他ノ關節ヲ侵スルアリ例之ハ

手腕關節痛又腕痛肩胛痛及ヒ膝痛ノ如キ之レ

ナリ

慢性痛風ハ即チ急性症ノ發作數回反覆ノ漸

ク輕症トナルモ其關節症依然トシテ去ラス猶

多クハ腫起疼痛ヲ存シ運動シ難ク遂ニ全身

醫學雜誌 卷之五十二 附錄

症ヲ誘發スルニ至ル是レナリ

第五慢性不傳染諸病

萎黃病クローハ血液即チ赤血球製造不全ニ因スル全

身貧血ニメ且ツ二三ノ繼發症ヲ顯ハス監載條

見ヨ但シ該病ハ好テ女子ノ可婚期ニ發シ持

續不同ニメ一定シ難シ

鑑識 主要ノ症状ハ即チ皮膚淡白色ヲ見ハ

シ偶々帶黃綠色トナリ殊ニ粘膜ニ於テモ齊

シク淡白色ヲ呈ス其他全身怠慢ヲ覺ヘ嗜眠

症ヲ發シ呼吸短息心悸尤盛シ易ク或ハ時々

五

壞血病パスコルハ食餌ノ調和不適ニ由リ偶發スル

血液病ニメ其經過中毛細管破壞シ全身破血

シ易ク殊ニ皮膚及ヒ粘膜ヨリ真ニ出血スル

ニ至リ蜂窠織ハ屢々滲出液ヲ潑溜スルトア

リ

其主症ハ齒齦腫脹ノ暗赤色トナリ甚々出血

衄血アリ食機減損ノ消化遲慢トナリ或ハ胃

痛ヲ起シ胃潰瘍稀レナラヌヲ經血不順ニメ或ハ減

少或ハ過多トナル而シテ理學的ノ診斷ニ由レ

バ屢々頸靜脈ニ於テ猫佞音アル等是レナリ

醫學雜誌 卷之五十二 附錄

シ場ノ殊ニ靨縁偶々腐爛スルアリ其他皮膚ニ膿淡數種ノ点状出血及ヒ溢血ヲ呈シ或ハ鼻腔氣管枝胃腸子宮及ヒ腎臟等ヨリ稀稠暗色ノ血液ヲ泄シ或ハ下肢ニ炎性浸淫ヲ起シ結節様物ヲ生シ全身衰弱ノ顔面汚穢淡白色ヲ帶ヒ四肢裂痛或ハ刺痛ヲ發スルアリ腺病スクロフハ或ハ遺傳性或ハ幼稚ノ際養料乳不整ナルカ或ハ不攝生等ニ起因スル全身ノ營養不全症ニシテ水脉系統皮膚粘膜及ヒ骨膜等ノ虚弱ナルヲ以テ肥厚及ヒ發炎シ場キ者

重

是レナリ而シテ大約二歳ヨリ初リ懷春期ニ至テ止ムヲ常トス
鑑識ハ經歷及ヒ現症ニ無テ以上諸般ノ症状ヲ併發スルカ或ハ特別ノ原因ナクハ連綿續發スル所ノ諸症ヲ以テ知ルヘシ
其症狀ハ屢々結膜加苔兒ヲ起シ或ハ結膜及ヒ角膜ニ胞叢疹ハスルヲ發シ或ハマイボム腺炎ニ罹リ眼瞼肥厚ルカ或ハ頑固ノ鼻加苔兒ヲ起シ鼻及ヒ口唇肥厚トナル其他顔面頭皮耳輪若クハ輕重ノ創傷近圍ニ濕疹エケチ

言部技名 卷之五十二 附以非林

ヲ發シ殊ニ項腺及ヒ頸腺ノ如キハ必ス腫脹
シ氣管枝及ヒ腸ハ頑固ノ加答兒ニ罹リ易ク
手骨脛骨跟骨等ハ潰瘍ニ罹リ或ハ水脉腺ノ
膿潰ヲ將來スル如キ之レナリ

白血

白血病ロイケハ初メ殆ント無熱ナレバ遂ニ多ク
ハ輕度ノ替留熱ヲ伴ヒ甚タ緩慢ニ起ル所ノ
慢性病ニメ九ノ中年ノ人ニ現ハル而シテ該病
ハ血中ノ白血球非常ニ増殖赤血球十箇甚キ
ハ二箇ニ白血球
比ノスルニ因ル者ナレバ其血液ヲ顯微鏡下
ニ檢スル所ハ容易ニ証明スベシ其病理タル

ヤ著ク腫脹セル脾臟及ヒ水脉腺若クハ骨髓
ヨリ過多ノ白血球ヲ血中ニ輸入スルカ或ハ
白血球ノ赤血球ニ變化スヘキ機能ノ妨碍ア
ルニ因ル殊ニ多クハ脾臟性若クハ骨髓性ニ
シテ水脉腺性ノ者寡ナシ故ニ理學的診斷ニ依
テ之レヲ檢セハ脾臟屢々肝臟モ亦及ヒ水脉
腺ノ著キ腫脹ヲ知ル其他顔面淡白色ニシテ乾
土ノ如ク又タ腹部充脹ヲ覺ヘ呼吸不利全身
倦怠シ鼻腸肺及腦中ニ頗ル出血シ遂ニ氣道
及ヒ腸ノ加答兒ニ罹リ全身大ヒニ羸瘦シ或

發所難經 卷之五十二 讀 綱目藏版

言部撰行 卷之五十三 岡田氏藏本

水腫ヲ發スル者ニシテ經過ハ大約半年ヨリ數年ニ亘ル

重

佝僂病

又タ英吉利私病或ハラヒチスト云

ハ幼稚ノ際確著ノ原因

ナクシテ發スル骨病ニシテ乃チ硬骨ノ發育ヲ主

宰スヘキ骨端及機能ヲ變シ爾來ノ新生骨組

織中土質骨塩分ノ沉降ヲ妨害シ爲ニ骨端腫

大ノ骨体柔軟トナリ全身他部ニ比スレバ頗

ル柔弱ナルヲ以テ体重ヲ支ユルニ耐ヘス自

然壓力ニ從テ彎曲ヲ來ス然リ而シテ漸ク經過

後チ一朝土質分ヲ沉降スルモ昔ニ彎曲シ

タル骨体及ヒ腫大セル骨端齊シク化骨ノ大

ヒニ發育ヲ緩慢ナラシムル者ナリ

鑑識 該病ヲ患フル小兒ハ年齡既ニ滿ルモ

猶歩行スル克ハス生齒甚ク遅ク顛門潤大ニ

シ後頭骨モ亦ク柔軟ナリ頭蓋且ツ骨端ハ腫

起殊ニ手足ニ於テ著シニ下肢外方ニ彎曲シ胸骨ハ肋

軟骨ト共ニ突出シテ鳩胸状ト云フヲナス以

上諸般ノ異形ヲ呈スルヤ初患ノ年齡ニ由テ

差異アリ小兒未ク歩行スル克ハサルノ際發

病スル者ハ下肢正直ナレバ骨盤扁平ニシテ鳩

珍所難經 卷之五十三 五九 岡田氏藏本

胸ヲ呈ス然若シ患兒既ニ歩行スルヲ得ル
片ハ乃チ下肢ノ彎曲ヲ来ス

又々經過後ノ監別ハ即チ目下現存セル畸形

曲_下胸_彎及_七全身ニ比スレハ四肢ノ著ク短小

ナルニ注目スベシ其他頭顱ハ過大ナルカ如

シト雖_正全ク變大ニ非スノ專ラ全身ト比較

スルニ由リ過大ニ見ルヲ屢々アリ

蜜尿病_{ジアペテス}ハ九ソ慢性ニノ急性ハ寡チシ其

初發ハ多ク詳カナラスト雖_正稀レニ腦病_過

作用或ハ榮_養ヨリ来ルヲ確認スルヲ_ア該病

言部

蜜尿病

_{ジアペテス}

ハ九ソ慢性ニノ急性ハ寡チシ其

初發ハ多ク詳カナラスト雖_正稀レニ腦病_過

作用或ハ榮_養ヨリ来ルヲ確認スルヲ_ア該病

ハ血中過多ノ糖質ヲ含有シ之レヲ尿中ニ輸

洩スル者ニノ其經過ハ大約一年乃至十年_稀又

年_レニ_五年_コリ_ニ五_年ニ_且リ_竟ニ_死ニ_陷ル

者多シ

鑑識ハ即チ煩渴飲引ノ常ニ甚キ飢餓ヲ覺ハ

飲_甚食_過スル_一皮膚乾燥齒齦弛緩_ニ或ハ齶齒ヲ

生_テノ_遂ニ_脱齒_ス眼球水晶体ニ曇翳ヲ来シ都

テ壞疽性ノ瘡衝ヲ發シ易ク漸次脱力ノ全身

大ニ羸瘦シ大便秘結シ嬉情全ク休止スル等

是レナリ其他尿ヲ檢スル_ル片ハ其尿中含糖ノ

量

ノ量平均百分中三分乃至五分日々二百五十尾ニ當ルニ
 ノ稀レニ百分中十分日々五百ノ多キニ至ル
 一アリ異重ハ千零二十乃至千零四十二ノ其
 色清淡其量常量ニ倍スル一アリ日三キ口尾
 瓦稀レニ十キ口其他尿素モ亦増量ス
 瓦ニ至ル一アリ日三キ口尾
 肉糖尿ジアペテスハ密尿病ノ一稀症ニノ尿中葡萄
 糖ノ他專ラ肉糖ヲ混シ或ハ肉糖ノミヲ含ム
 者ヲ云フ但シ肉糖ハ筋中ニ含ム所ノ糖質ニ
 ノ酸醗性ヲ具有セス之レ葡萄糖ニ異ナル所
 ナリ

量

尿管ジアペテスハ其理未タ詳カナラスト雖ハ急性
 諸病ノ恢復期或ハ藥用ニ由来シ或ハ特發ス
 ル者ニノ多クハ慢性ナルモ偶ハ急性ナル一ア
 リ
 其症狀ハ蜜尿病ト同一ナレハ唯糖分ヲ含マ
 サル所ノ尿ヲ多量ニ洩シ日五キ口尾乃異重
 ハ千零々四乃至千零十二ニノ尿中固形成
 分殊ニ尿素モ亦タ増量スル者ナリ該尿ヲ尿
 素尿ト云

